

2023年5月26日

医育機関に所属する勤務医のキャリアプラン：

勤務医という選択、開業医という選択

日医総研、日本医師会女性医師支援センター



## 目 次

1. 本稿の目的 .....	1
2. 対象と方法 .....	2
2. 1 分析対象とした調査.....	2
2. 2 分析方法 .....	2
2. 3 回答者属性 .....	3
3. 分析結果 .....	7
3. 1 将来のキャリアの選択肢.....	7
3. 2 勤務医選択者について.....	14
(1) [勤務医選択者] 想定している職場.....	14
(2) [勤務医選択者] 想定している勤務形態.....	20
(3) [勤務医選択者] 重視する勤務条件.....	27
3. 3 開業医選択者について.....	33
(1) [開業医選択者] 開業手段の選択肢.....	33
(2) [開業医選択者] 開業予定時期.....	38
(3) [開業医選択者] 開業の候補地.....	42
4. 結果のまとめ .....	47
4. 1 将来のキャリアの選択肢について.....	47
4. 2 「勤務医」を選んだ回答者について.....	48
4. 3 「開業医」を選んだ回答者について.....	50
別添資料：図表集 .....	1



## 1. 本稿の目的

本稿の目的は、医育機関に所属する勤務医の将来のキャリアに関する動向を把握することである<sup>1</sup>。特に、勤務医を志向する医師たちが想定している職場や勤務形態、重視する勤務条件、また、開業医を志向する医師たちが考えている開業手段、予定時期、候補地について、整理・分析した。

上述の通り、本稿で分析したのはあくまで「医育機関に勤務・所属する医師」の将来のキャリアプランに関する事柄である。したがって、本稿の分析結果をもって、日本の医師全体の意識や動向と捉えるのは早計である。ただし、わが国の医師はすべて医育機関で養成され、多数が医育機関やその関連施設で研修や専門医や学位取得等のトレーニングを受ける。医師として専門性が確立されて一人前になった後も、医学研究や学会活動等、何らかの形で、医育機関とのつながりを持つ医師は少なくない。医育機関とは名称の通り、医師の育成と訓練のための機関であり、すべての医師がそのキャリア形成の過程で関わりを持つ。そういった意味では、医育機関に勤務・所属する医師のキャリアに関する意識や動向を分析して把握しておくことは、医師あるいは勤務医全体の意識や動向を推し量るための一里塚として、一定の意義を有するものと考えられる。

---

<sup>1</sup> 1 医育機関とは、「学校教育法」(昭和 22 年法律第 26 号)において、医学又は歯学の教育を行うことに付随して設けられた病院及び分院をいい、大学研究所附属病院も含む。

## 2. 対象と方法

### 2. 1 分析対象とした調査

分析対象としたのは、2023年1月～2月にかけて日本医師会が実施した「医育機関に勤務・所属する医師の将来のキャリアプラン調査」の結果データである。この調査は、日本医師会女性医師支援センターが調査主体となり、全国の医育機関に勤務・所属する医師を対象に実施し、3,659件の有効回答を得た全国調査である。

図表 2-1. 調査の概要

<b>調査目的</b>	医育機関に所属する勤務医の（1）将来のキャリアプラン、（2）現在の勤務状況や職場環境、（3）臨床を離れた経験について調査すること
<b>調査対象</b>	医育機関に勤務・所属する医師
<b>調査方法</b>	ウェブ・アンケート調査
<b>実施期間</b>	2023年1月～2月
<b>実施主体</b>	日本医師会 女性医師支援センター
<b>有効回答</b>	3,659件

### 2. 2 分析方法

分析にあたっては、医師の将来のキャリア選択に焦点を当てた。中でも、二大選択肢と考えられる「勤務医」と「開業医」という2つのキャリアの選択肢について、深掘して分析を行った。各項目の単純集計分析に加えて、(1)年代や男女

差、居住地といった個人の基本属性、(2) 配偶者・パートナーの状況や子どもの有無（子どもの状況）といった家族に関する属性、(3) 卒後年数や職位といった仕事に関する属性について、クロス集計分析を行った（図表 2-2）。

図表 2-2. クロス集計の軸

個人の基本属性	年齢（年代）
	性別（男性・女性） <sup>2</sup>
	居住地
家族に関する属性	配偶者・パートナーの状況
	子どもの状況
仕事に関する属性	卒後年数
	職位

### 2. 3 回答者属性

図表 2-3-1 から図表 2-3-3 に、分析対象とした調査結果の回答者属性を示す。図表 2-3-1 は回答者個人に関わる属性、図表 2-3-2 は回答者の医師としてのキャリアに関わる属性、図表 2-3-3 は回答者の勤務先に関わる属性をそれぞれ示している。

<sup>2</sup> 男女の性別以外に性別（その他）との回答もあったが、8 件（0.2%）と少数だったため、クロス集計の対象からは外した。

図表 2-3-1. 回答者属性① 個人に関わる属性

		n	%
年齢	20代	349	9.5%
	30代	1177	32.2%
	40代	1123	30.7%
	50代	709	19.4%
	60代以上	301	8.2%
性別	男性	2473	67.6%
	女性	1178	32.2%
	その他	8	0.2%
居住地	首都圏	1397	38.2%
	首都圏以外の大都市圏	880	24.1%
	地方中核都市	817	22.3%
	地方中小都市	541	14.8%
	へき地・離島	24	0.7%
配偶者	配偶者・パートナーがいる（相手は医師）	1108	30.3%
	配偶者・パートナーがいる（相手は医師以外）	1907	52.1%
	配偶者・パートナーはいない	644	17.6%
子ども	未就学の子どもがいる	1059	28.9%
	子どもはいるが、未就学の子どもはいない	1406	38.4%
	子どもはいない	1194	32.6%



図表 2-3-1. 回答者属性② 医師としてのキャリアに関わる属性

		n	%
卒後年数	2年未満	157	4.3%
	2～10年未満	897	24.5%
	10～20年未満	1,154	31.5%
	20～30年未満	900	24.6%
	30年以上	551	15.1%
診療科・専門領域	内科	1,140	31.2%
	外科	387	10.6%
	小児科	255	7.0%
	産婦人科	166	4.5%
	精神科	114	3.1%
	皮膚科	122	3.3%
	眼科	100	2.7%
	耳鼻咽喉科	101	2.8%
	泌尿器科	99	2.7%
	整形外科	159	4.3%
	脳神経外科	112	3.1%
	形成外科	47	1.3%
	救急科	47	1.3%
	麻酔科	164	4.5%
	放射線科	164	4.5%
	リハビリテーション科	35	1.0%
	病理	84	2.3%
	臨床検査	21	0.6%
	総合診療	59	1.6%
	未定（臨床研修中）	126	3.4%
その他	157	4.3%	
大学医局	所属・勤務している	3,364	91.9%
	所属・勤務していない（入局前や退局済を含む）	295	8.1%

図表 2-3-1. 回答者属性③ 勤務先に関わる属性

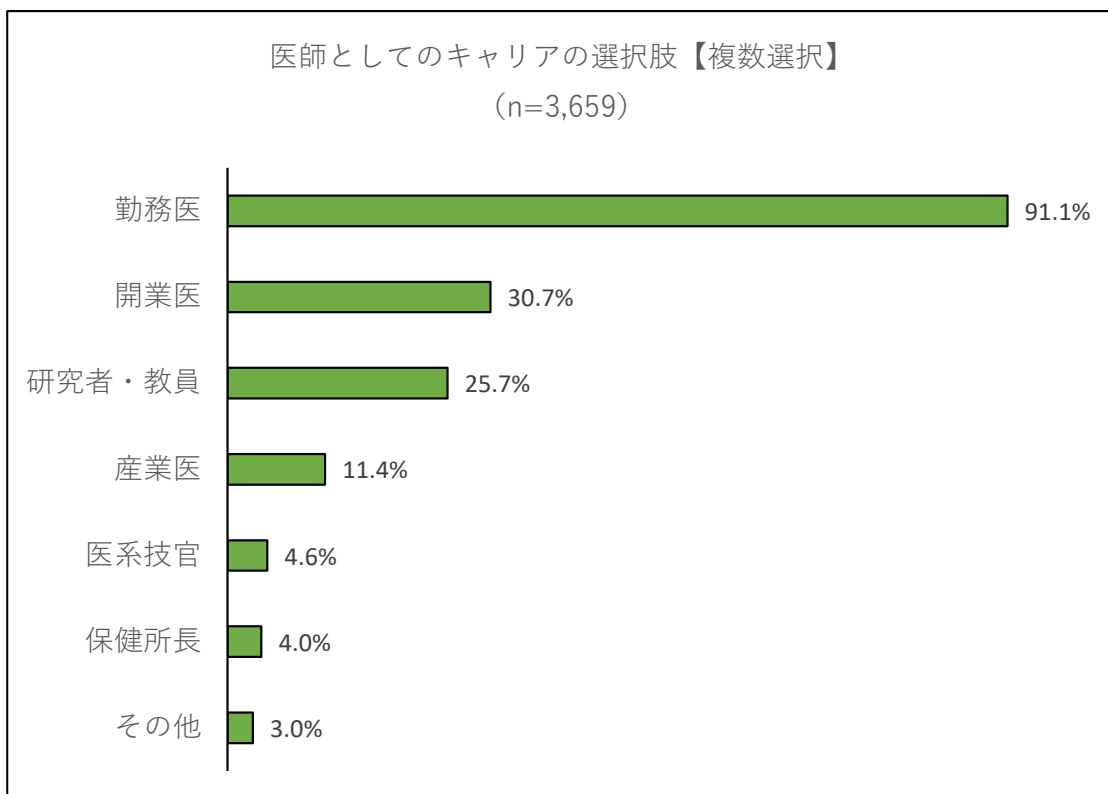
		n	%
勤務先での職位	経営者	70	1.9%
	管理職	1,041	28.5%
	上記以外	2,548	69.6%
勤務先の病床規模	病院 500床以上	3,110	85.0%
	病院 200-499床	332	9.1%
	病院 20-199床	78	2.1%
	診療所	64	1.7%
	その他	75	2.0%
勤務先の開設主体	国	1,405	38.4%
	公的医療機関	378	10.3%
	社会保険関係団体	42	1.1%
	医療法人	457	12.5%
	その他の法人	1,170	32.0%
	個人	20	0.5%
	わからない	112	3.1%
	医療機関以外で勤務	75	2.0%
勤務先の所在地	首都圏	1362	37.2%
	首都圏以外の大都市圏	838	22.9%
	地方中核都市	790	21.6%
	地方中小都市	570	15.6%
	過疎地・へき地・離島	24	0.7%
	医療機関以外で勤務	75	2.0%

### 3. 分析結果

#### 3. 1 将来のキャリアの選択肢

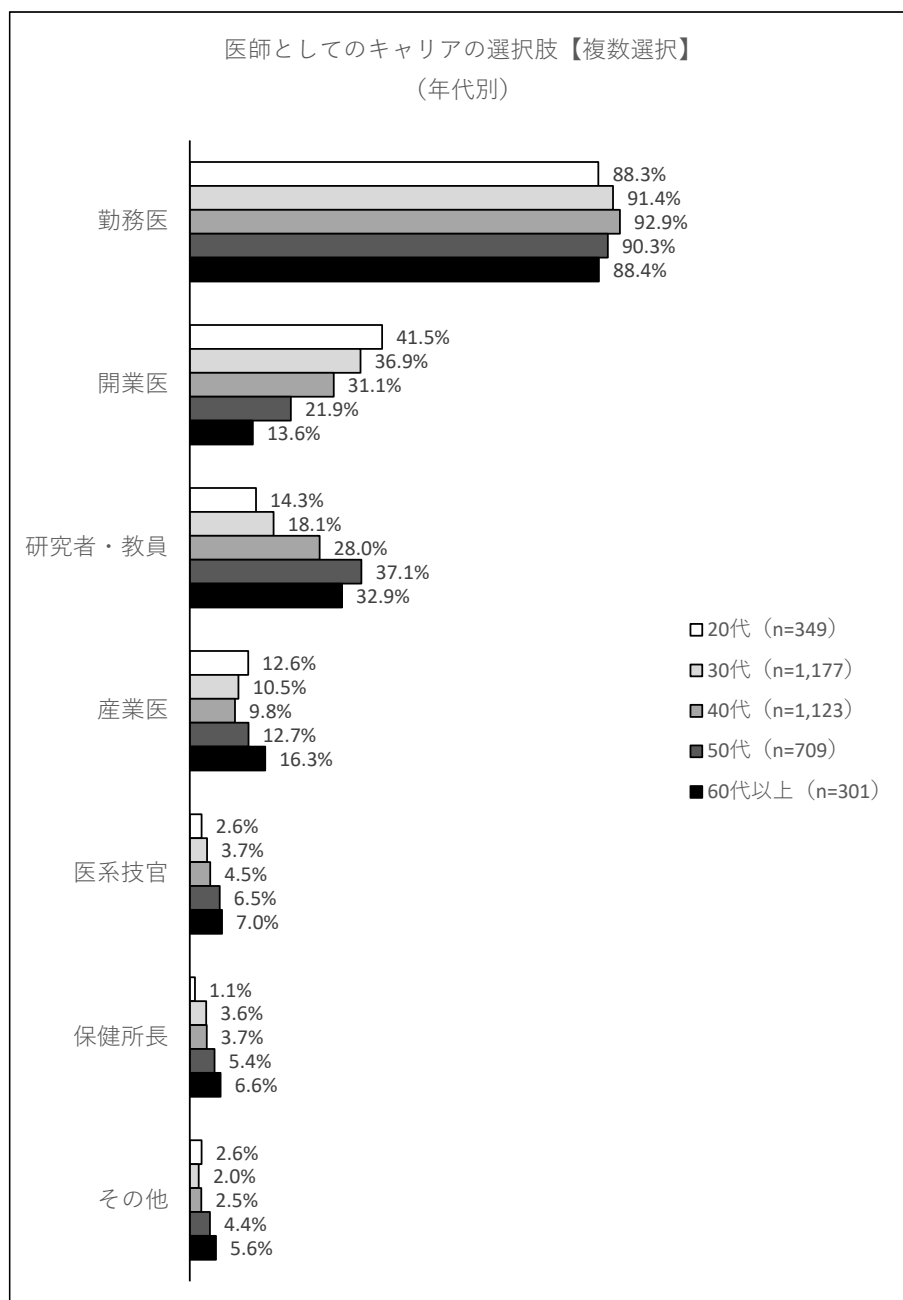
図表 3-1-1 は、医師としてのキャリアの選択肢について、複数選択での回答結果を示している。「勤務医」が最も多く 9 割超(91.1%)、次いで「開業医」(30.7%)であった。続いて「研究者・教員」(25.7%)、「産業医」(11.4%)、「医系技官」(4.6%)、「保健所長」(4.0%) という結果であった。

図表 3-1-1. 医師としてのキャリアの選択肢



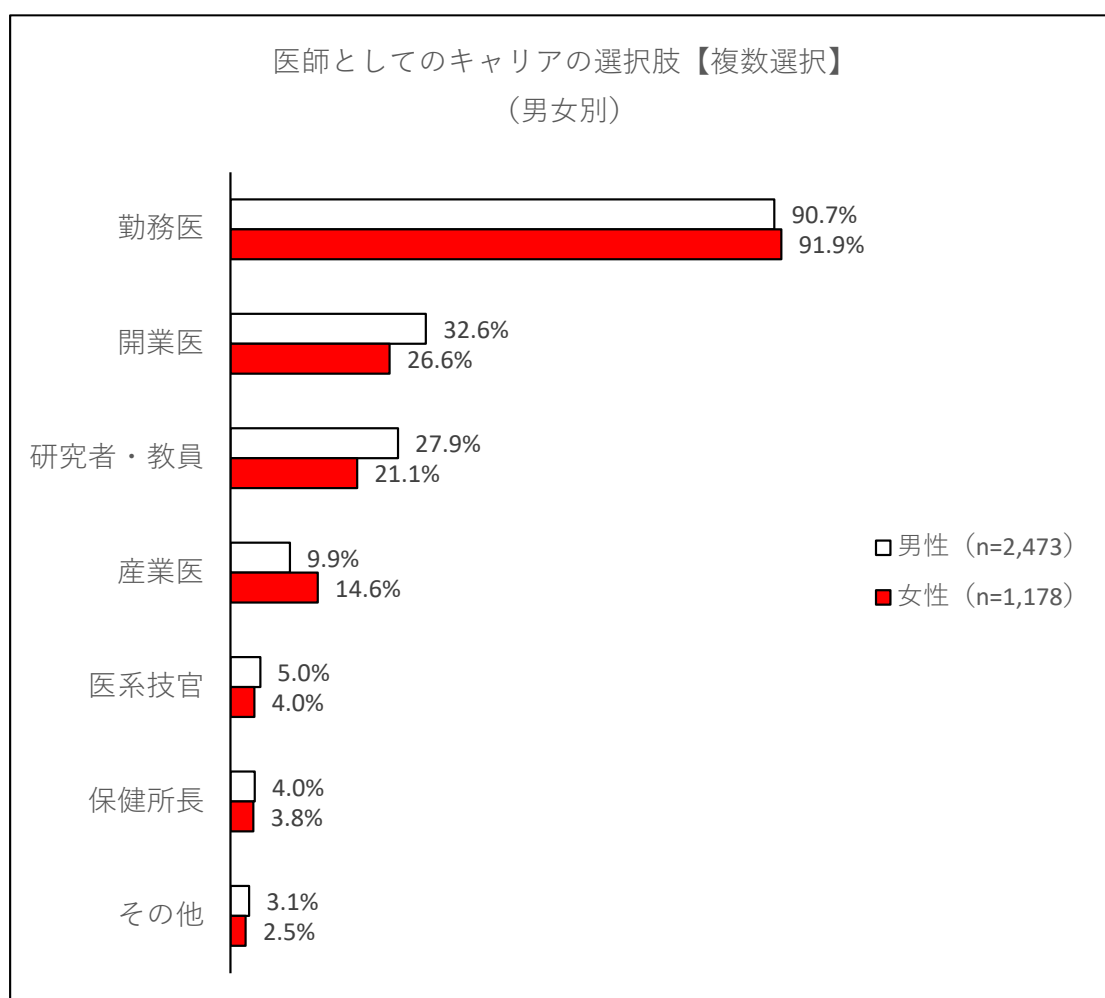
図表 3-1-2 は、医師としてのキャリアの選択肢の回答結果について、年代別にクロス集計をしたものである。「勤務医」を選択した割合は各年代とも 9 割前後だが、「開業医」を選択した割合は上の年代ほど低く、「研究者・教員」「医系技官」「保健所長」を選択した割合は上の年代ほど高くなっていた。

図表 3-1-2. 医師としてのキャリアの選択肢（年代別クロス集計）



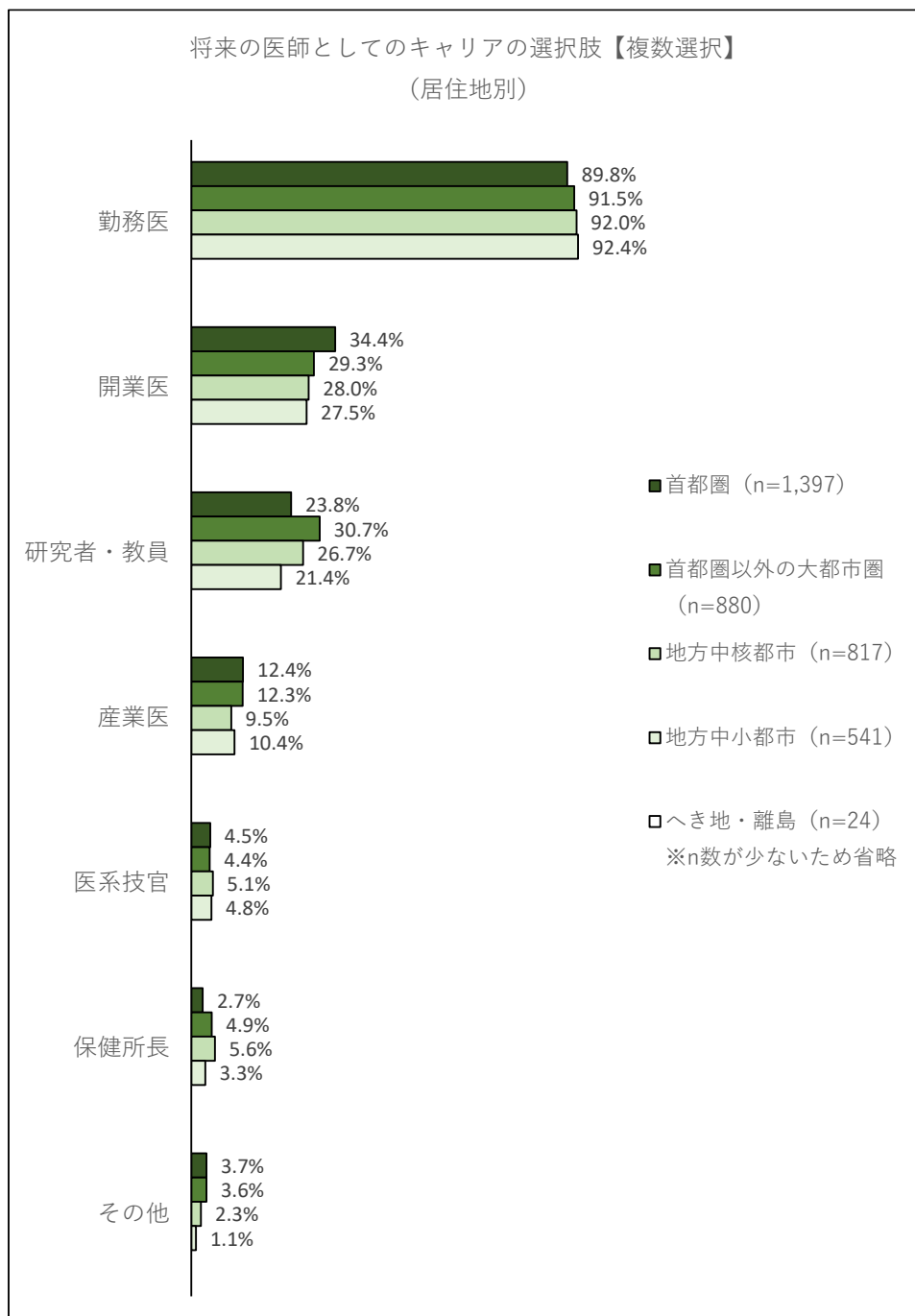
図表 3-1-3 は、医師としてのキャリアの選択肢の回答結果について、男女別にクロス集計をしたものである。「勤務医」を選択した割合は男女とも 9 割超であり、差がないが、「開業医」や「研究者・教員」を選択した割合は男性の方が高く、「産業医」を選択した割合は女性の方が高かった。

図表 3-1-3. 医師としてのキャリアの選択肢（男女別クロス集計）



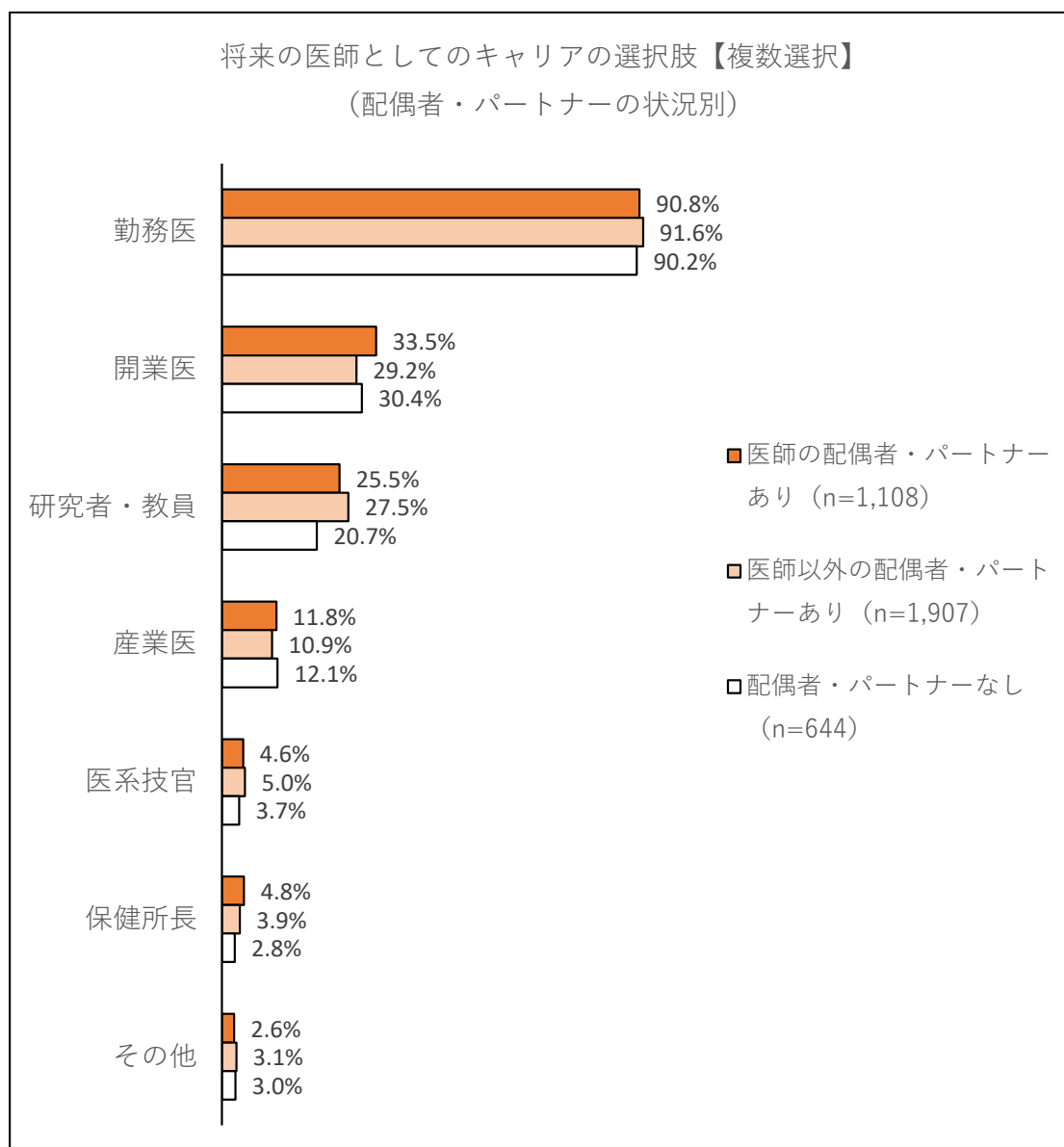
図表 3-1-4 は、医師としてのキャリアの選択肢の回答結果について、居住地別にクロス集計をしたものである。首都圏居住者が開業医を選択した割合は、他の地域の居住者（但し、へき地・離島居住者は n 数の関係で省略）よりも高かった。

図表 3-1-4. 医師としてのキャリアの選択肢（居住地別クロス集計）



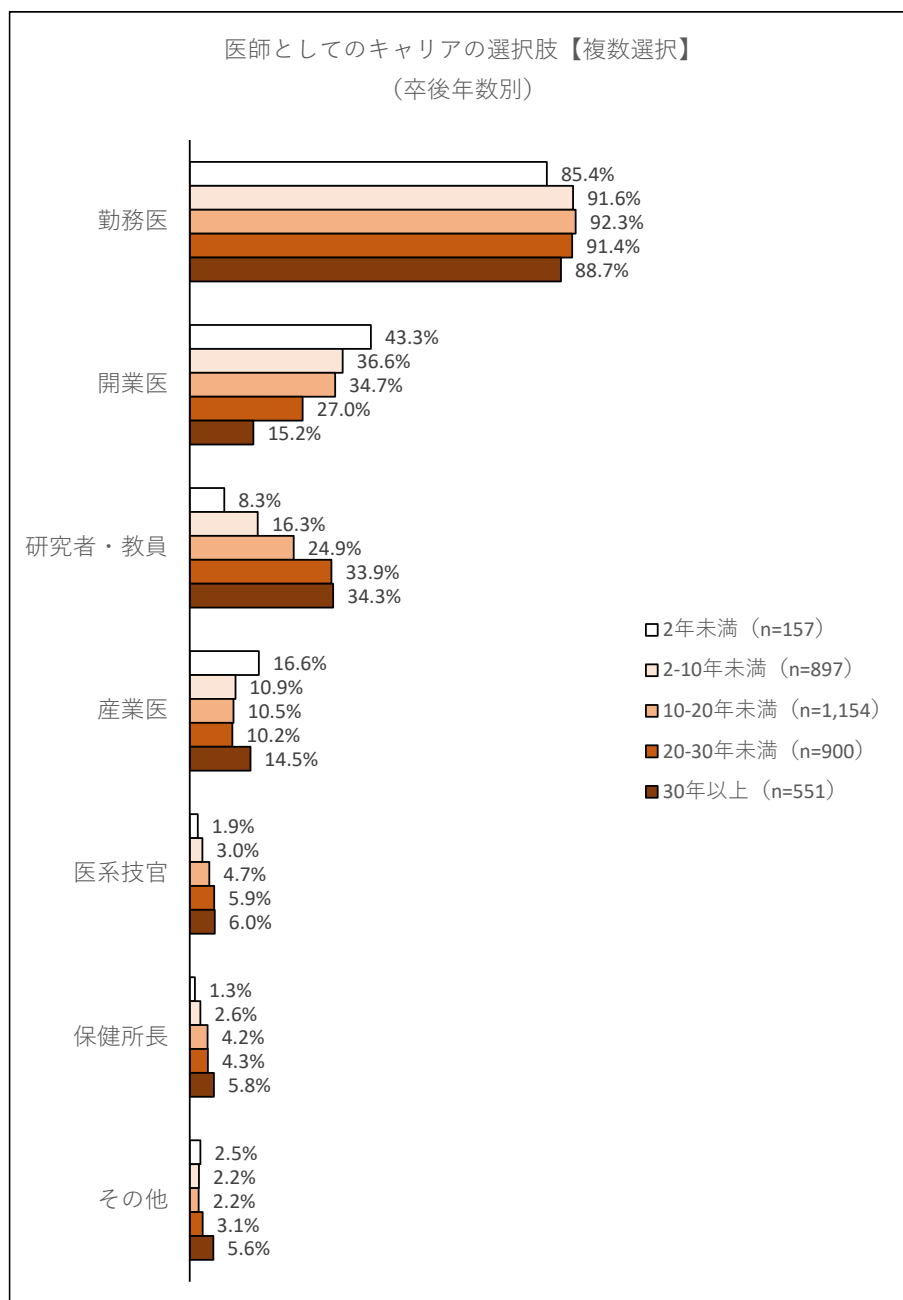
図表 3-1-5 は、医師としてのキャリアの選択肢の回答結果について、配偶者・パートナーの状況別にクロス集計をしたものである。医師の配偶者・パートナーがいる群が開業医を選択した割合は、他の群よりも高かった。

図表 3-1-5. 医師としてのキャリアの選択肢（配偶者・パートナーの状況別クロス集計）



図表 3-1-6 は、医師としてのキャリアの選択肢の回答結果について、卒後年数別にクロス集計をしたものである。「勤務医」を選択した割合は各群とも 9 割前後だが、「開業医」を選択した割合は卒後年数が低いほど高く、「研究者・教員」「医系技官」「保健所長」を選択した割合は卒後年数が高いほど高かった。

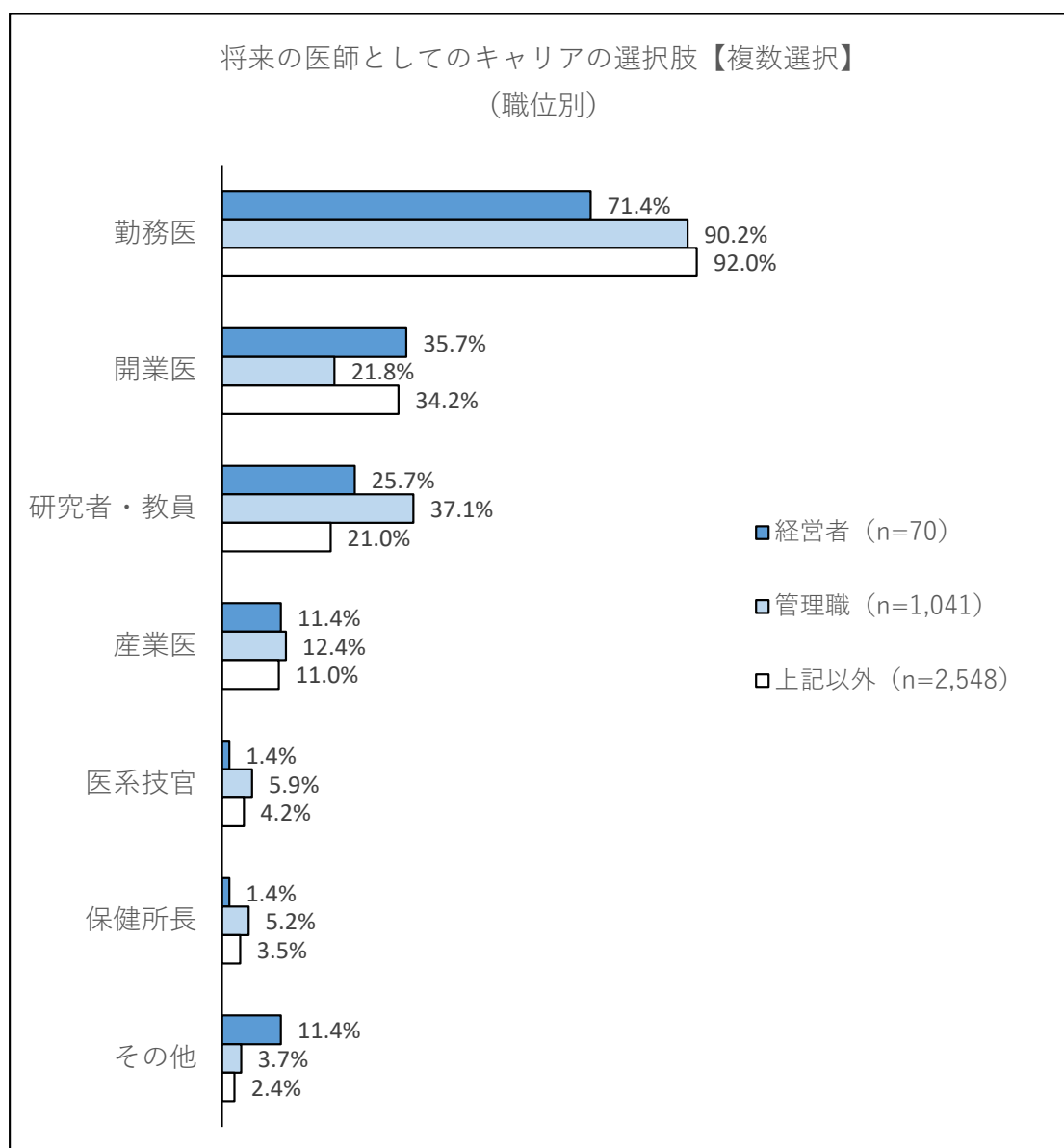
図表 3-1-6. 医師としてのキャリアの選択肢（卒後年数別クロス集計）





図表 3-1-7 は、医師としてのキャリアの選択肢の回答結果について、職位別にクロス集計をしたものである。経営者が「勤務医」を選択した割合（71.4%）は他の群と比べて低かった。また、管理職が「開業医」を選択した割合（21.8%）は、他の群と比べて低かった。

図表 3-1-7. 医師としてのキャリアの選択肢（職位別クロス集計）

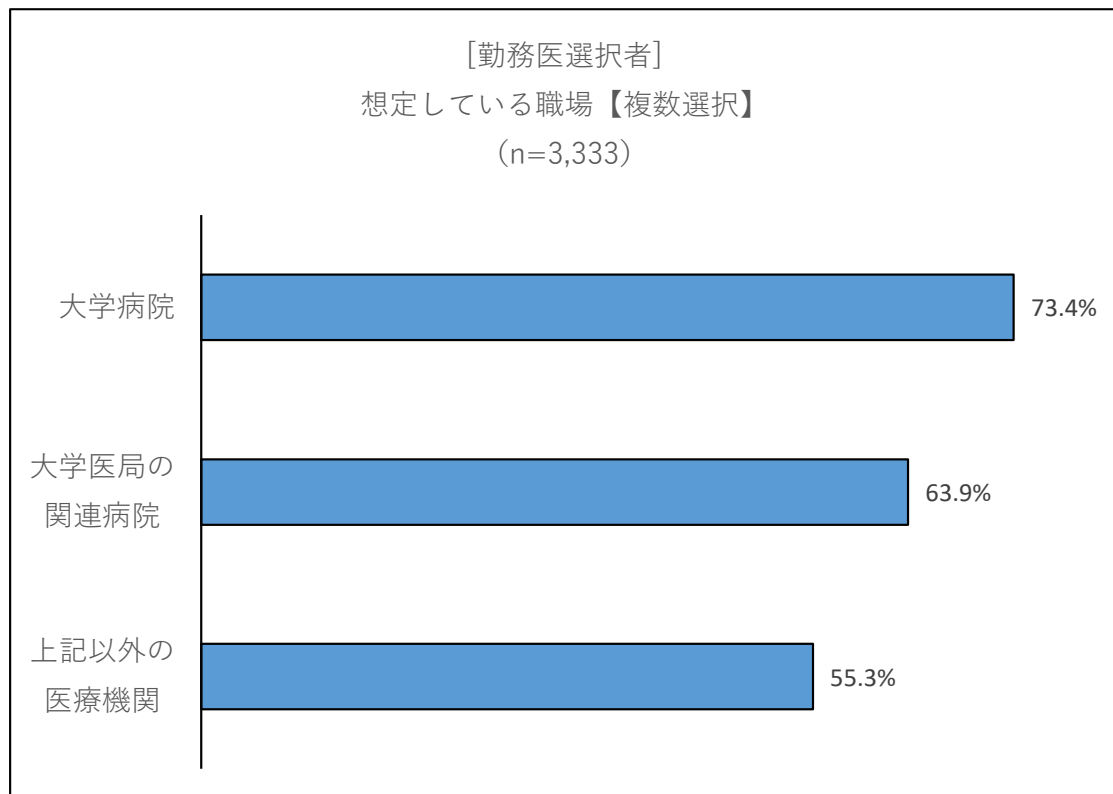


### 3. 2 勤務医選択者について

#### (1) [勤務医選択者] 想定している職場

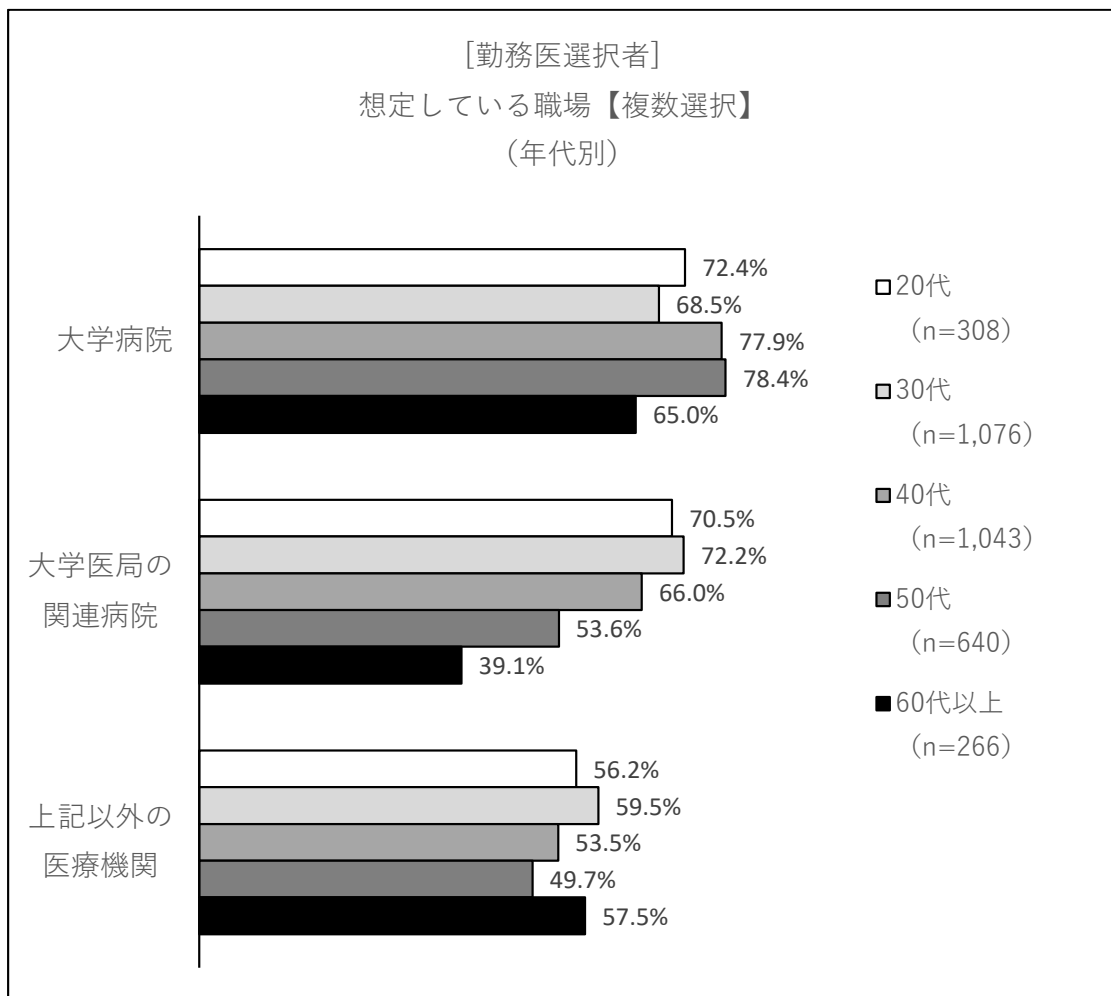
図表 3-2-1-1 は、キャリアの選択肢として勤務医を選択した回答者（勤務医選択者）が想定している職場について、複数選択での回答結果を示している。「大学病院」が最も多く（73.4%）、次いで「大学医局の関連病院」（63.9%）、「上記以外の医療機関」（55.3%）という結果であった。

図表 3-2-1-1. [勤務医選択者] 想定している職場



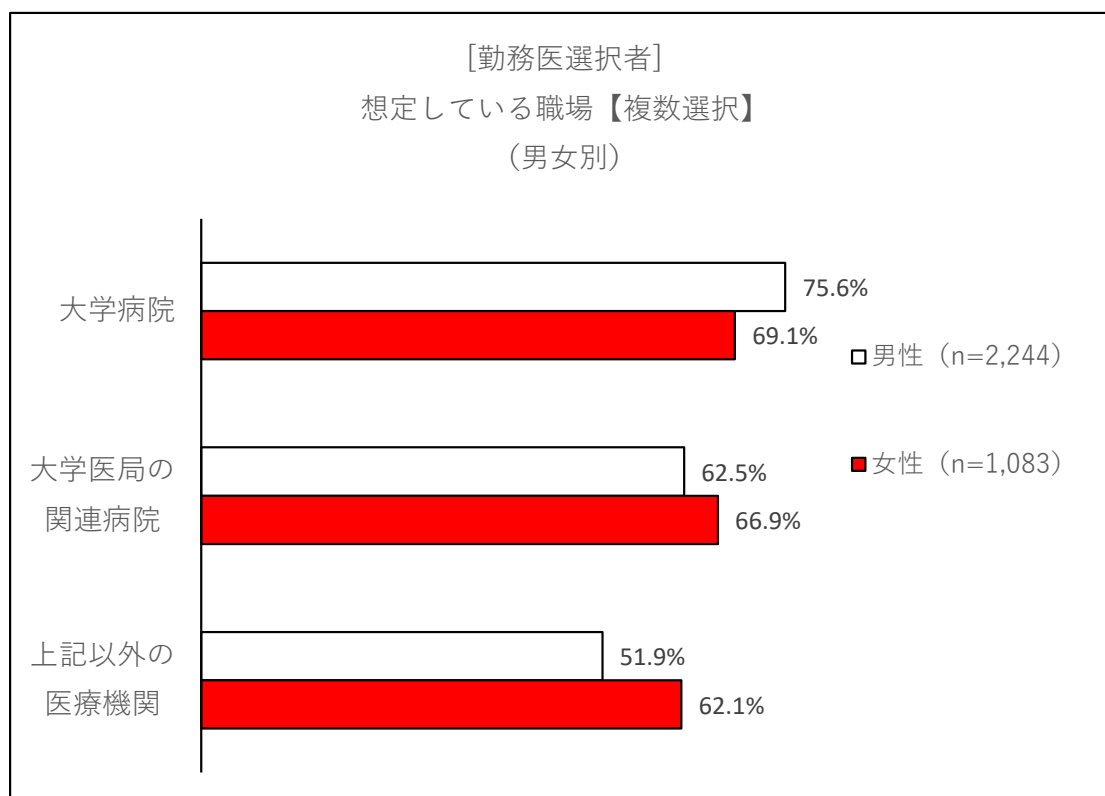
図表 3-2-1-2 は、勤務医選択者が想定している職場について、年代別にクロス集計した結果について示している。年代ごとに差異が見受けられる。特に、「大学医局の関連病院」を想定している割合は、若い年代に比べて上の年代の方が低かった。

図表 3-2-1-2. [勤務医選択者] 想定している職場（年代別クロス集計）



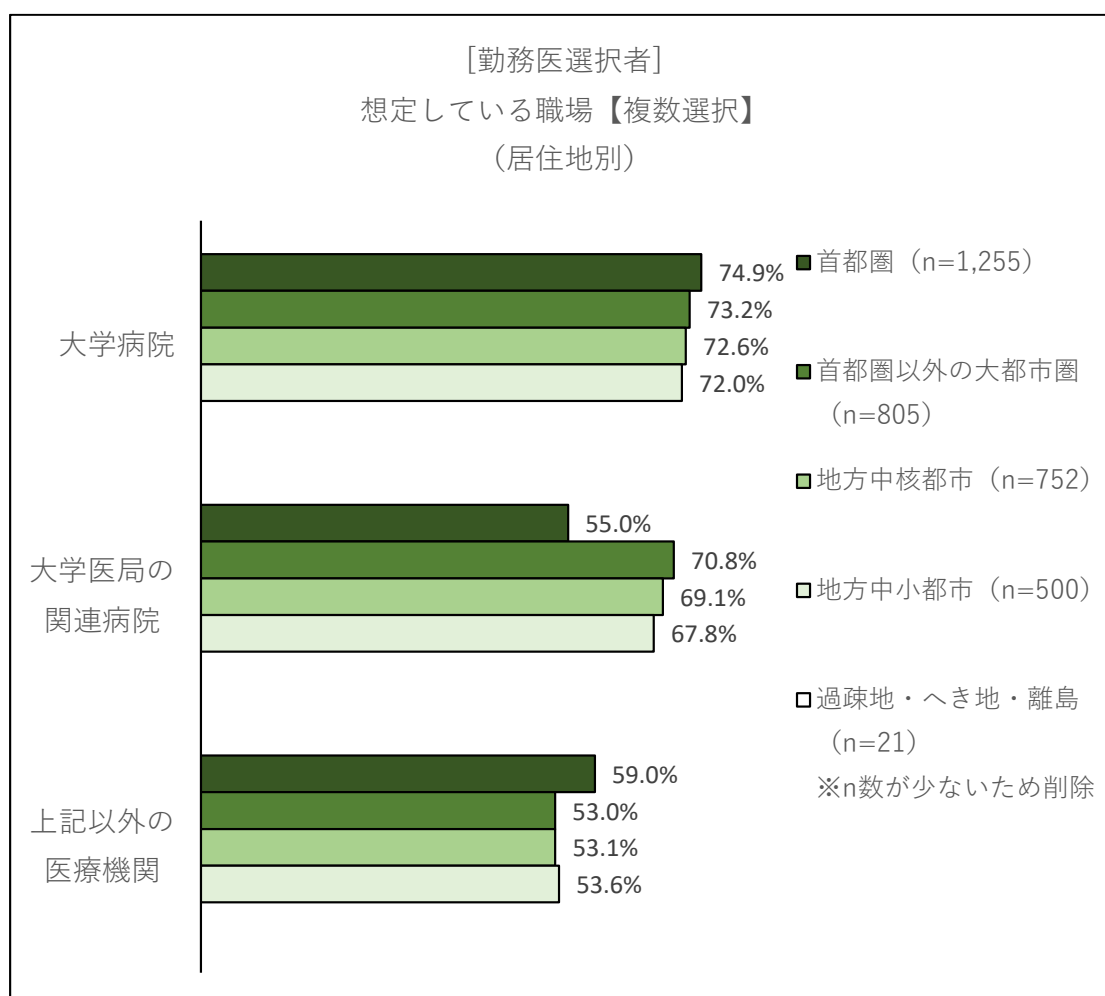
図表 3-2-1-3 は、勤務医選択者が想定している職場について、男女別にクロス集計した結果について示している。男女ともに、「大学病院」→「大学医局の関連病院」→「上記以外の医療機関」の順に想定している割合が高かった。また、「大学病院」を想定している割合は女性に比べて男性の方が高く、「大学医局の関連病院」と「上記以外の医療機関」を想定している割合は男性に比べて女性の方が高かった。

図表 3-2-1-3. [勤務医選択者] 想定している職場 (男女別クロス集計)



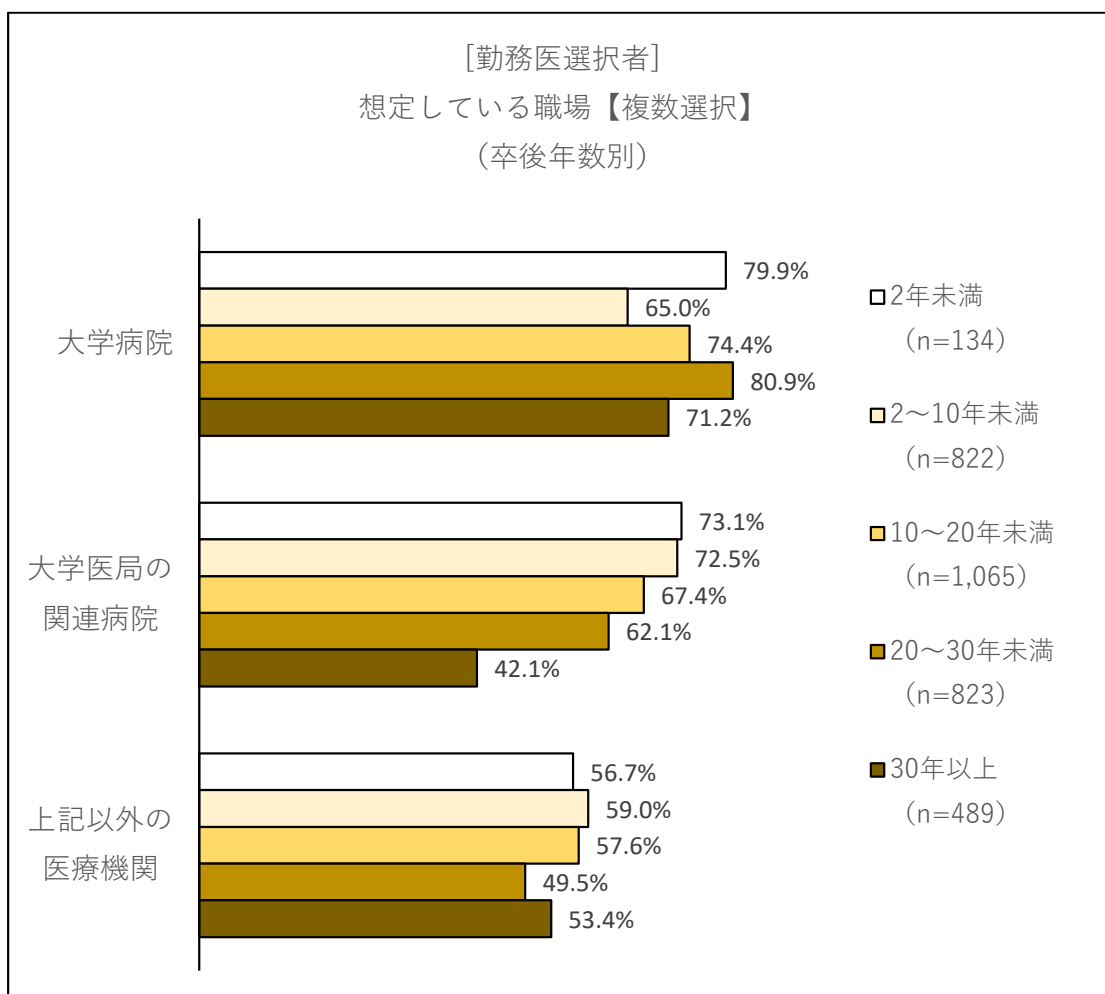
図表 3-2-1-4 は、勤務医選択者が想定している職場について、居住地別にクロス集計した結果について示している。首都圏居住者は他の群（但し、へき地・離島居住者は n 数の関係で省略）に比べて「大学医局の関連病院」での勤務を想定している割合（55.0%）が低かった。

図表 3-2-1-4. [勤務医選択者] 想定している職場（居住地別クロス集計）



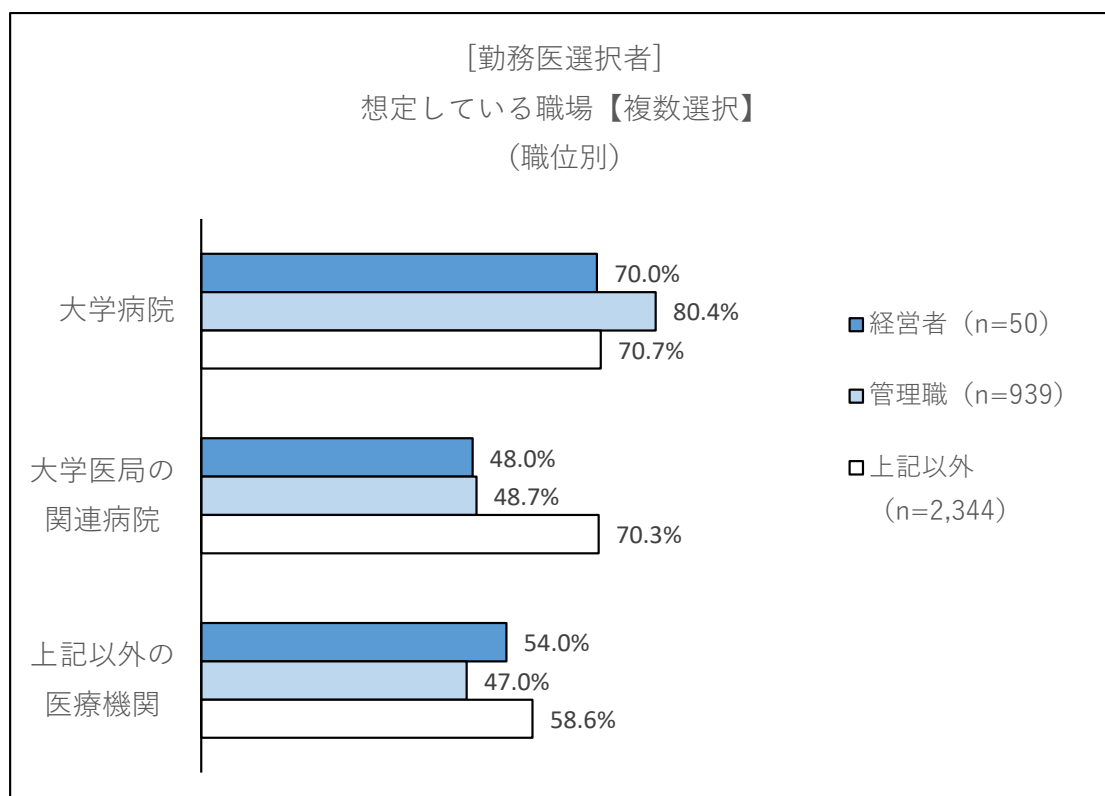
図表 3-2-1-5 は、勤務医選択者が想定している職場について、卒後年数別にクロス集計した結果について示している。「大学医局の関連病院」を想定している割合は、卒後年数を経るほど低くなっていた。

図表 3-2-1-5. [勤務医選択者] 想定している職場（卒後年数別クロス集計）



図表 3-2-1-6 は、勤務医選択者が想定している職場について、職位別にクロス集計した結果について示している。「大学病院」を想定している割合はどの群でも最も高いが、特に管理職では 8 割超（80.4%）であった。

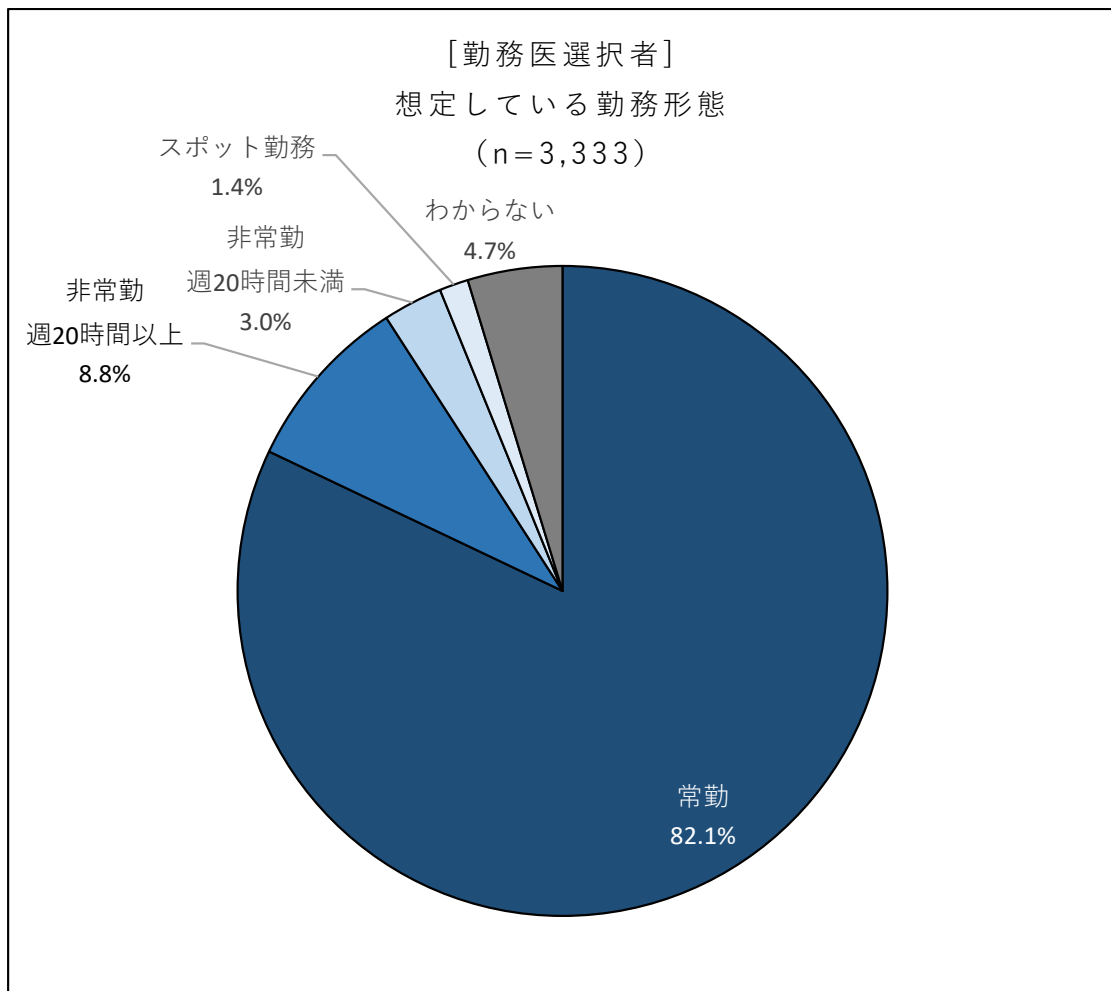
図表 3-2-1-6. [勤務医選択者] 想定している職場（職位別クロス集計）



## (2) [勤務医選択者] 想定している勤務形態

図表 3-2-2-1 は、勤務医選択者が想定している勤務形態についての回答結果を示している。「常勤」が最も多く 8 割を超えた (82.1%)。これに続いて「非常勤 週 20 時間以上」(8.8%)、「非常勤 週 20 時間未満」(3.0%)、「スポット勤務」(1.4%) という回答結果であった。

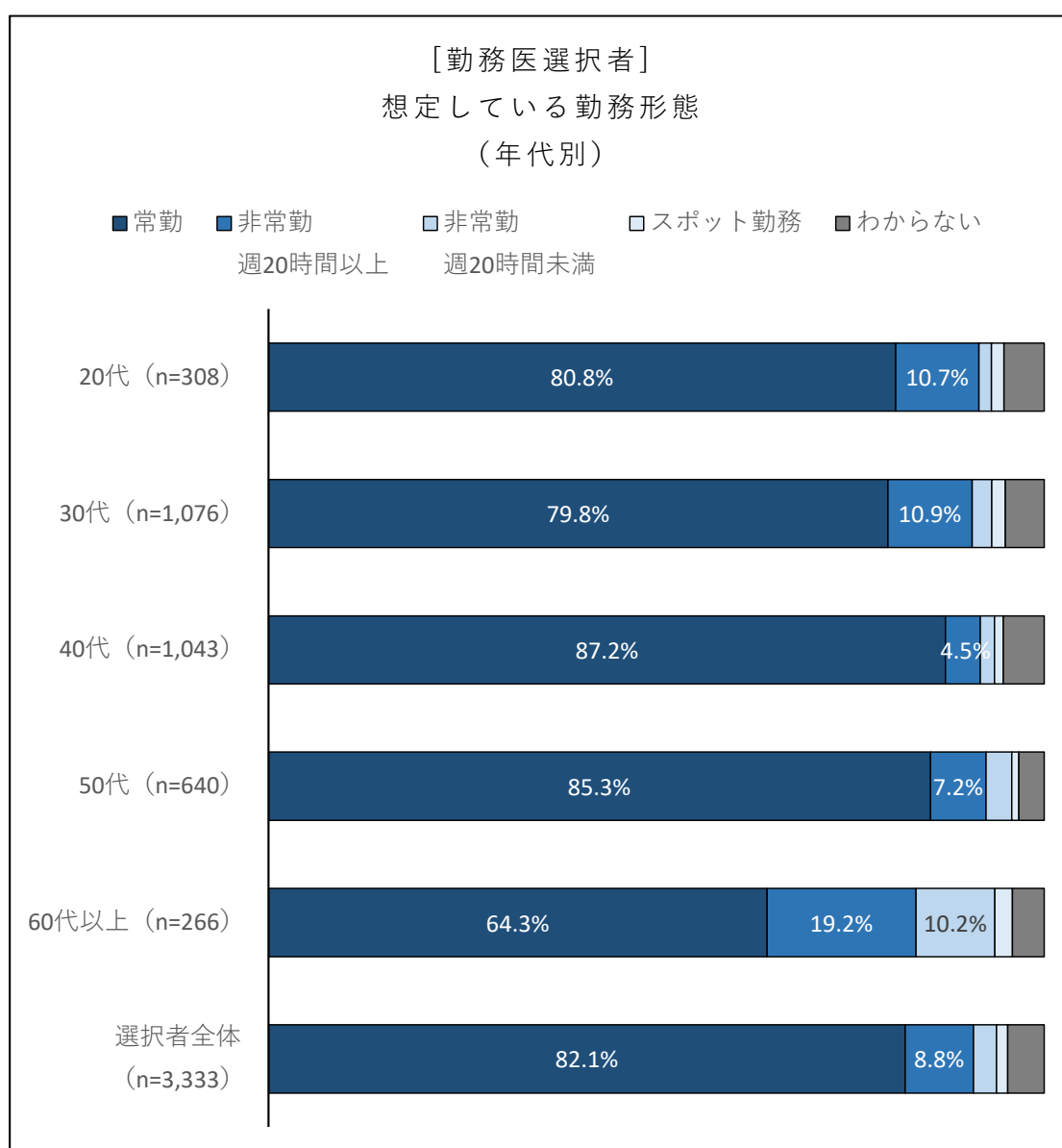
図表 3-2-2-1. [勤務医選択者] 想定している勤務形態





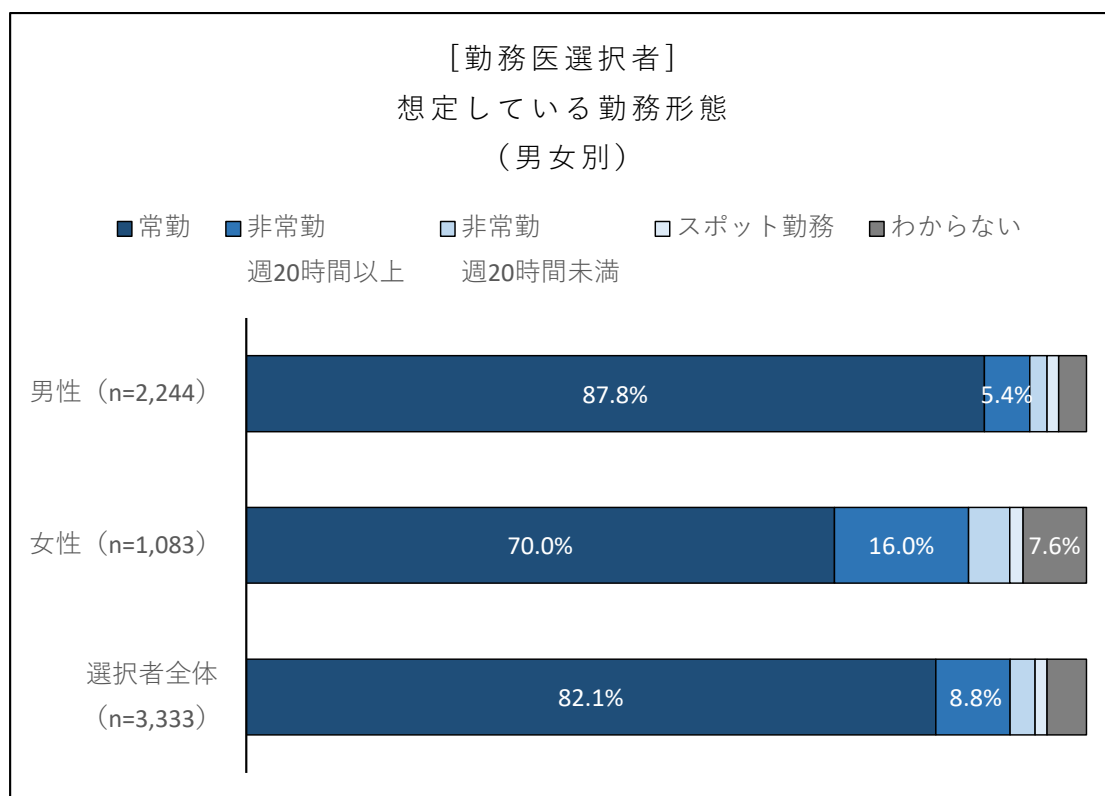
図表 3-2-2-2 は、勤務医選択者が想定している勤務形態について、年代別にクロス集計した結果を示している。各年代とも「常勤」を想定している割合が最も高いが、60代以上と20代・30代では、40代・50代に比べると非常勤を想定している割合が高かった。

図表 3-2-2-2. [勤務医選択者] 想定している勤務形態 (年代別クロス集計)



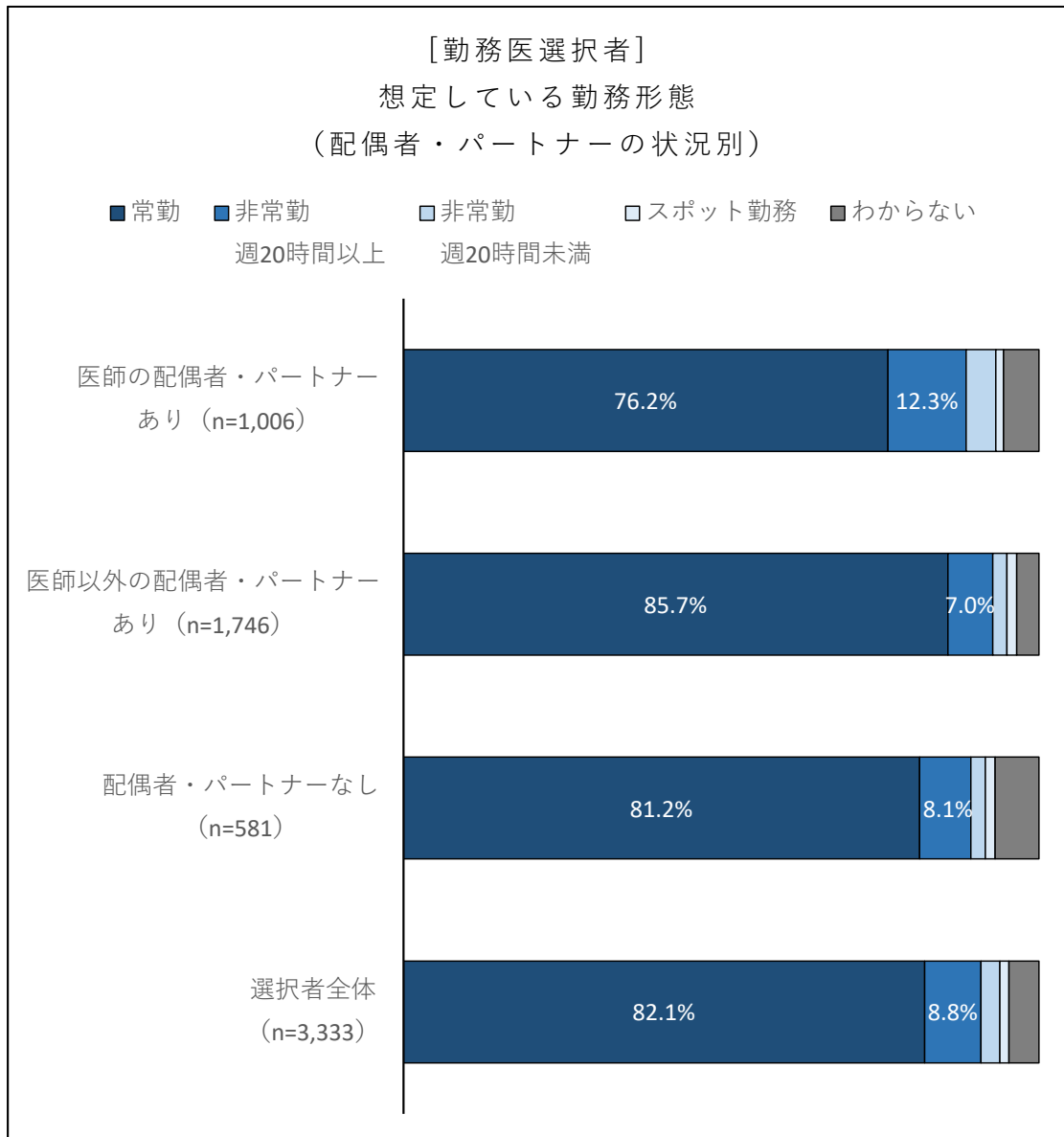
図表 3-2-2-3 は、勤務医選択者が想定している勤務形態について、男女別にクロス集計した結果を示している。男女ともに「常勤」を想定している割合が最も高いが、男性に比べると女性が非常勤を想定している割合が高かった。

図表 3-2-2-3. 想定している勤務形態（男女別クロス集計）



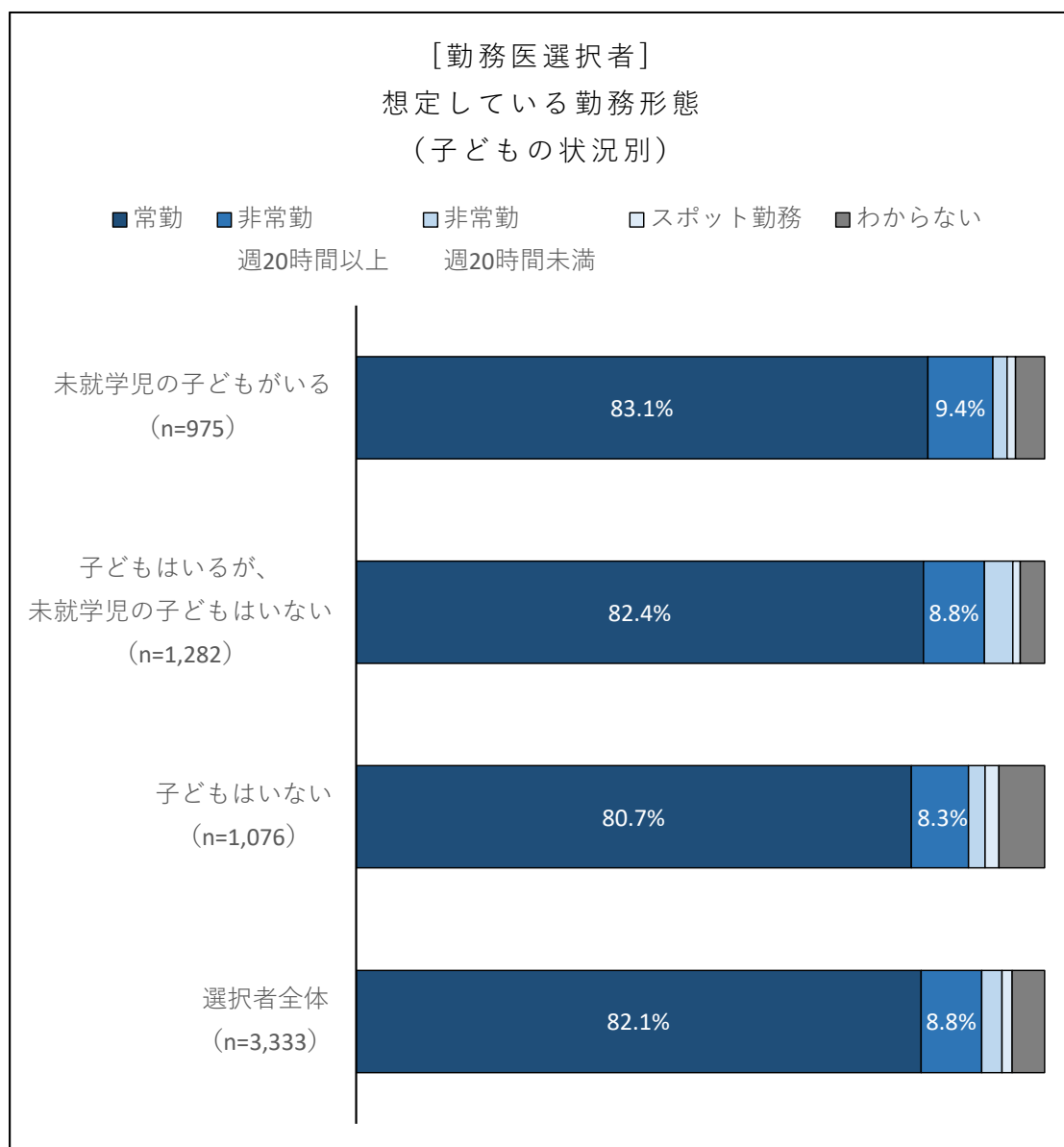
図表 3-2-2-4 は、勤務医選択者が想定している勤務形態について、配偶者・パートナーの状況別にクロス集計した結果を示している。各群ともに「常勤」を想定している割合が最も高いが、医師の配偶者・パートナーがいる群が非常勤を想定している割合が比較的高かった。

図表 3-2-2-4. 想定している勤務形態（配偶者・パートナーの状況別クロス集計）



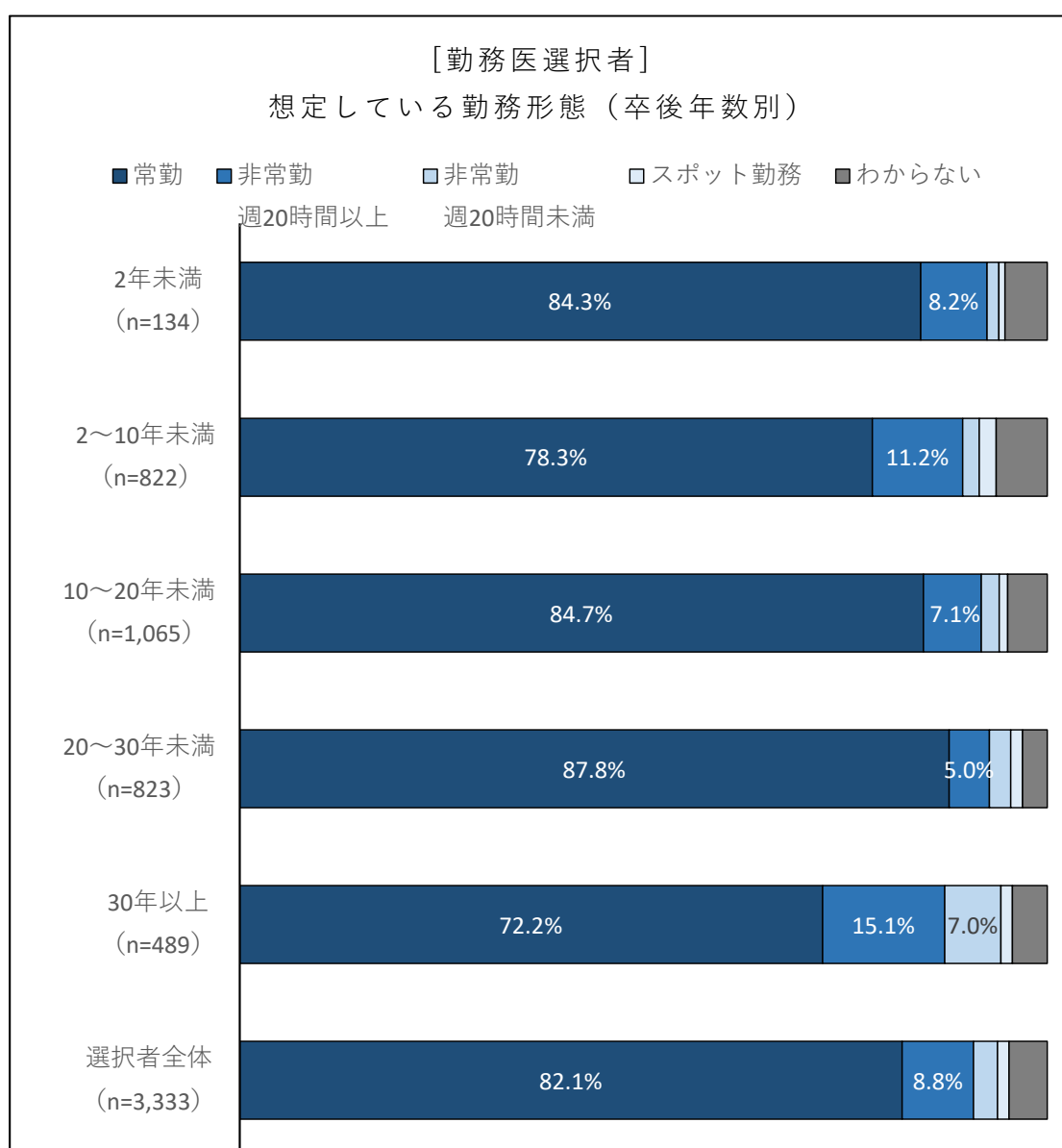
図表 3-2-2-5 は、勤務医選択者が想定している勤務形態について、子どもの状況別にクロス集計した結果を示している。各群ともに「常勤」を想定している割合が最も高く、目立った差異は認められない。

図表 3-2-2-5. 想定している勤務形態（子どもの状況別クロス集計）



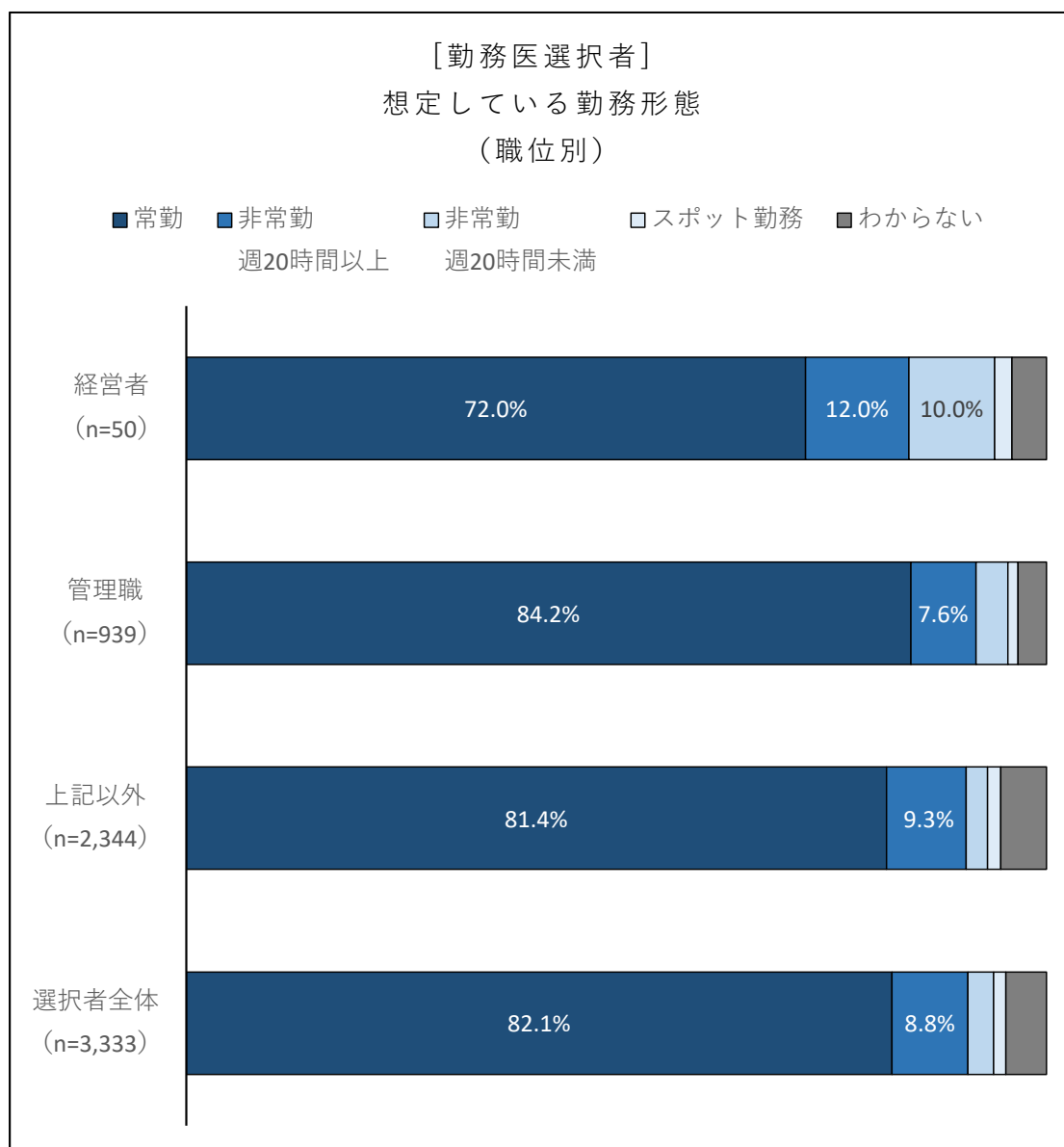
図表 3-2-2-6 は、勤務医選択者が想定している勤務形態について、卒後年数別にクロス集計した結果を示している。各群とも「常勤」を想定している割合が最も高いが、卒後 2～10 年未満の群と卒後 30 年以上の群では他の群に比べて非常勤を想定している割合が高かった。

図表 3-2-2-6. [勤務医選択者] 想定している勤務形態（卒後年数別クロス集計）



図表 3-2-2-7 は、勤務医選択者が想定している勤務形態について、職位別にクロス集計した結果を示している。各群ともに「常勤」を想定している割合が最も高いが、経営者の群が非常勤を想定している割合が比較的高かった。

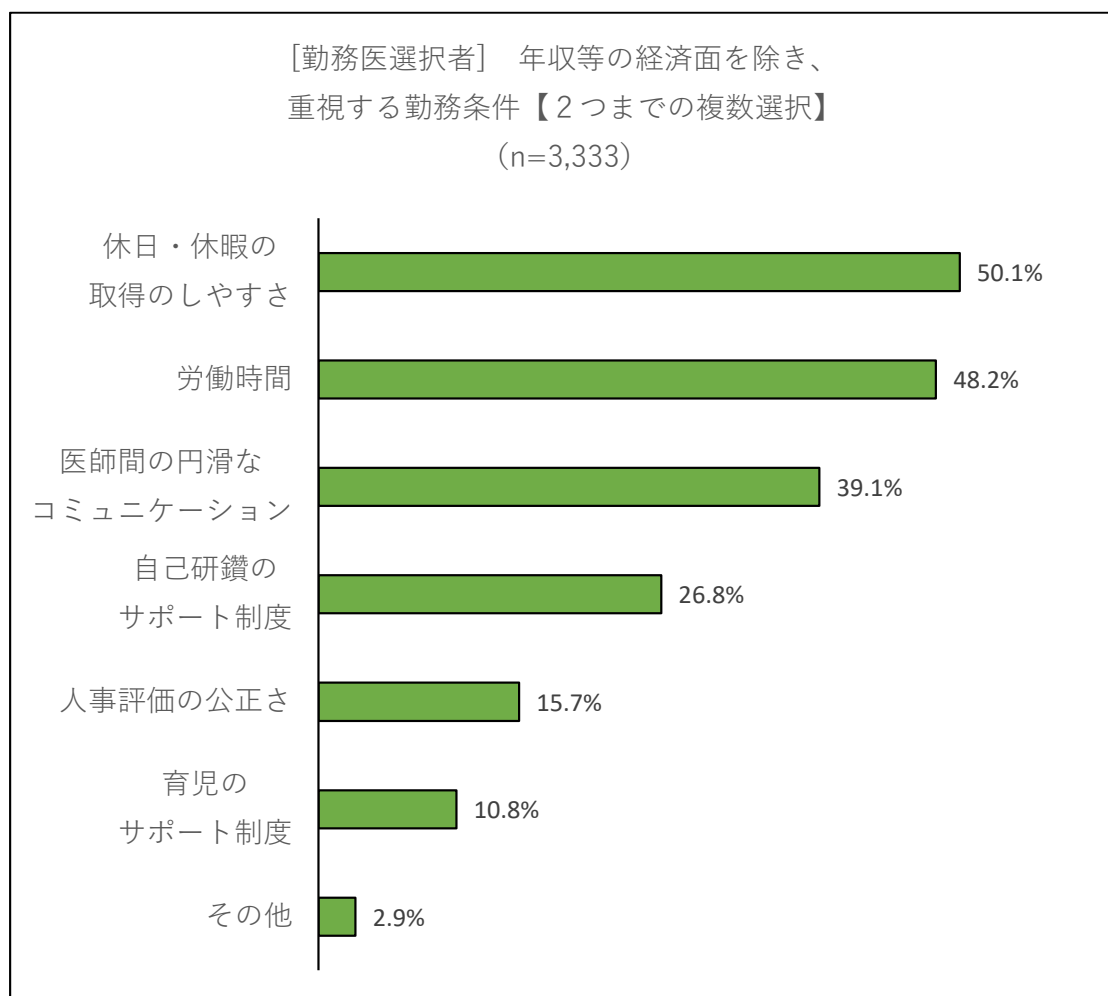
図表 3-2-2-7. 想定している勤務形態（職位別クロス集計）



### (3) [勤務医選択者] 重視する勤務条件

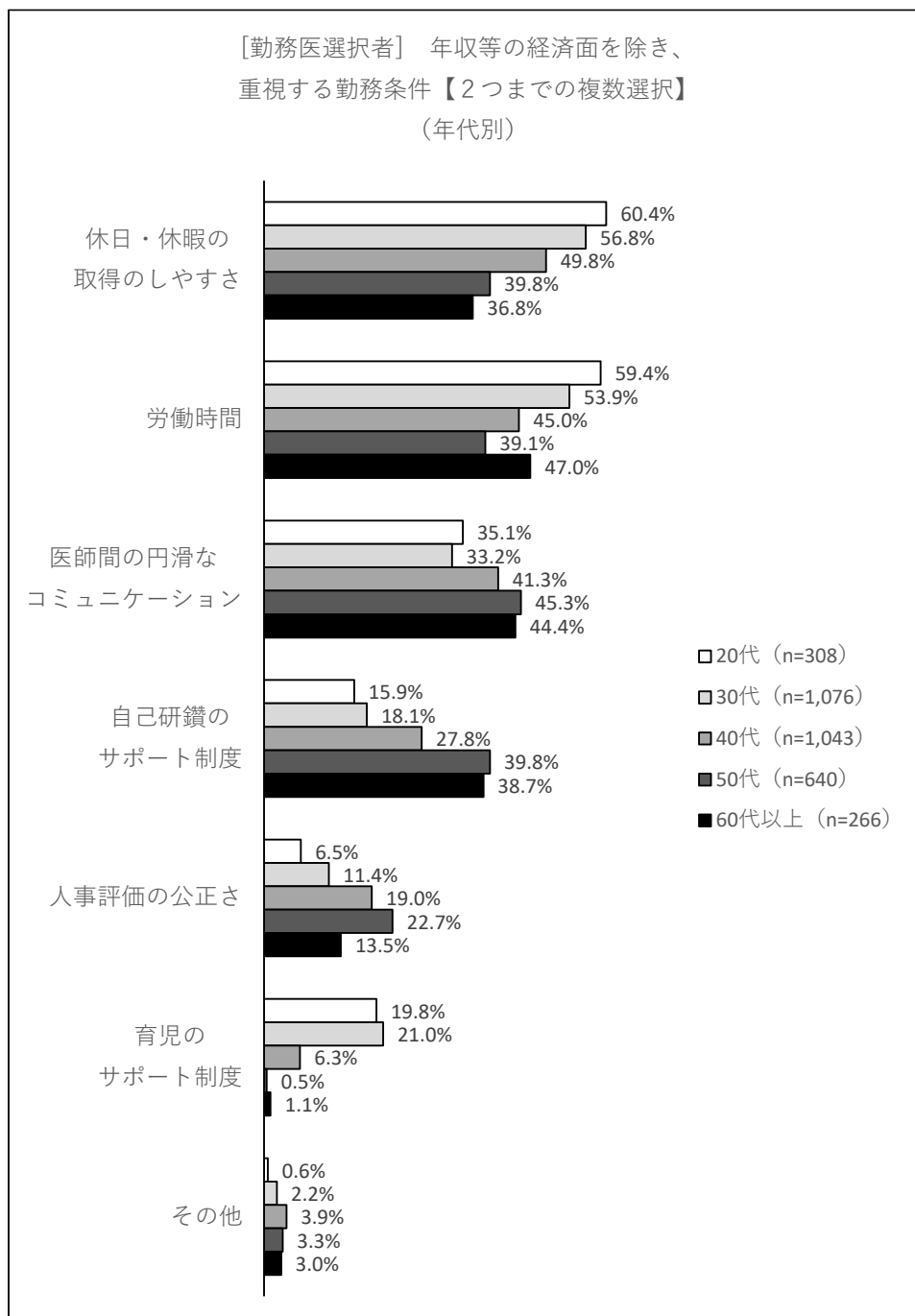
図表 3-2-3-1 は、勤務医選択者が重視する勤務条件について、年収等の経済面を除き 2 つまでの複数選択で尋ねた回答結果を示している。「休日・休暇の取得のし易さ」(50.1%) が最多で、次いで「労働時間」(48.2%) であった。続いて、「医師間の円滑なコミュニケーション」(39.1%)、「自己研鑽のサポート制度」(26.8%)、「人事評価の公正さ」(15.7%)、「育児のサポート制度」(10.8%) という結果であった。

図表 3-2-3-1. [勤務医選択者] 重視する勤務条件



図表 3-2-3-2 は、勤務医選択者が重視する勤務条件について、年代別にクロス集計した結果を示している。図示した通り、年代ごとに重視する勤務条件として挙げた割合に差異が見受けられた。

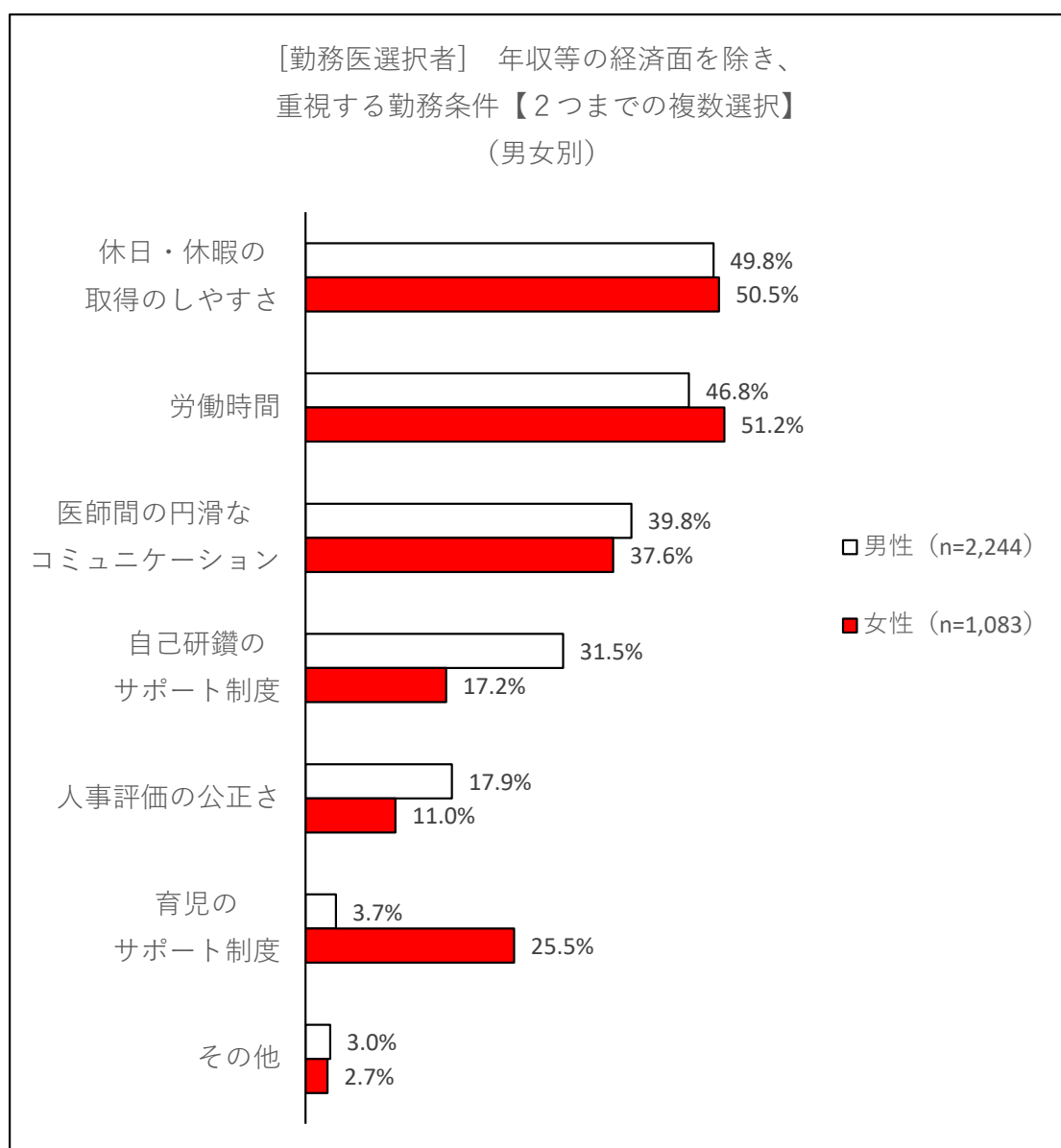
図表 3-2-3-2. [勤務医選択者] 重視する勤務条件 (年代別クロス集計)





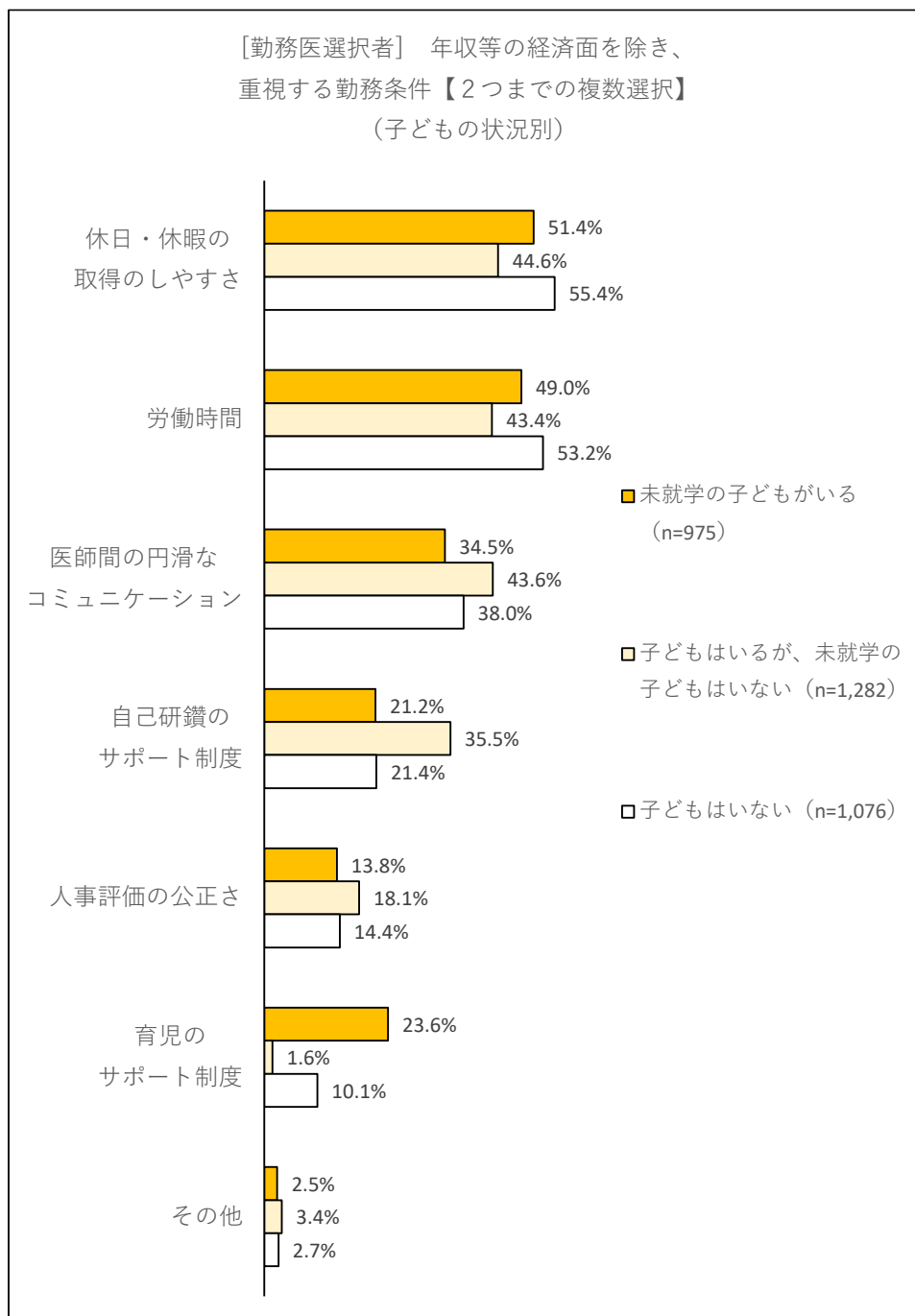
図表 3-2-3-3 は、勤務医選択者が重視する勤務条件について、男女別にクロス集計した結果を示している。「休日・休暇の取得のし易さ」「労働時間」「医師間の円滑なコミュニケーション」の上位 3 項目は男女で共通するが、「自己研鑽のサポート制度」と「人事評価の公正さ」は男性が挙げた割合が高く、「育児のサポート制度」は女性が挙げた割合が高かった。

図表 3-2-3-3. 重視する勤務条件（男女別クロス集計）



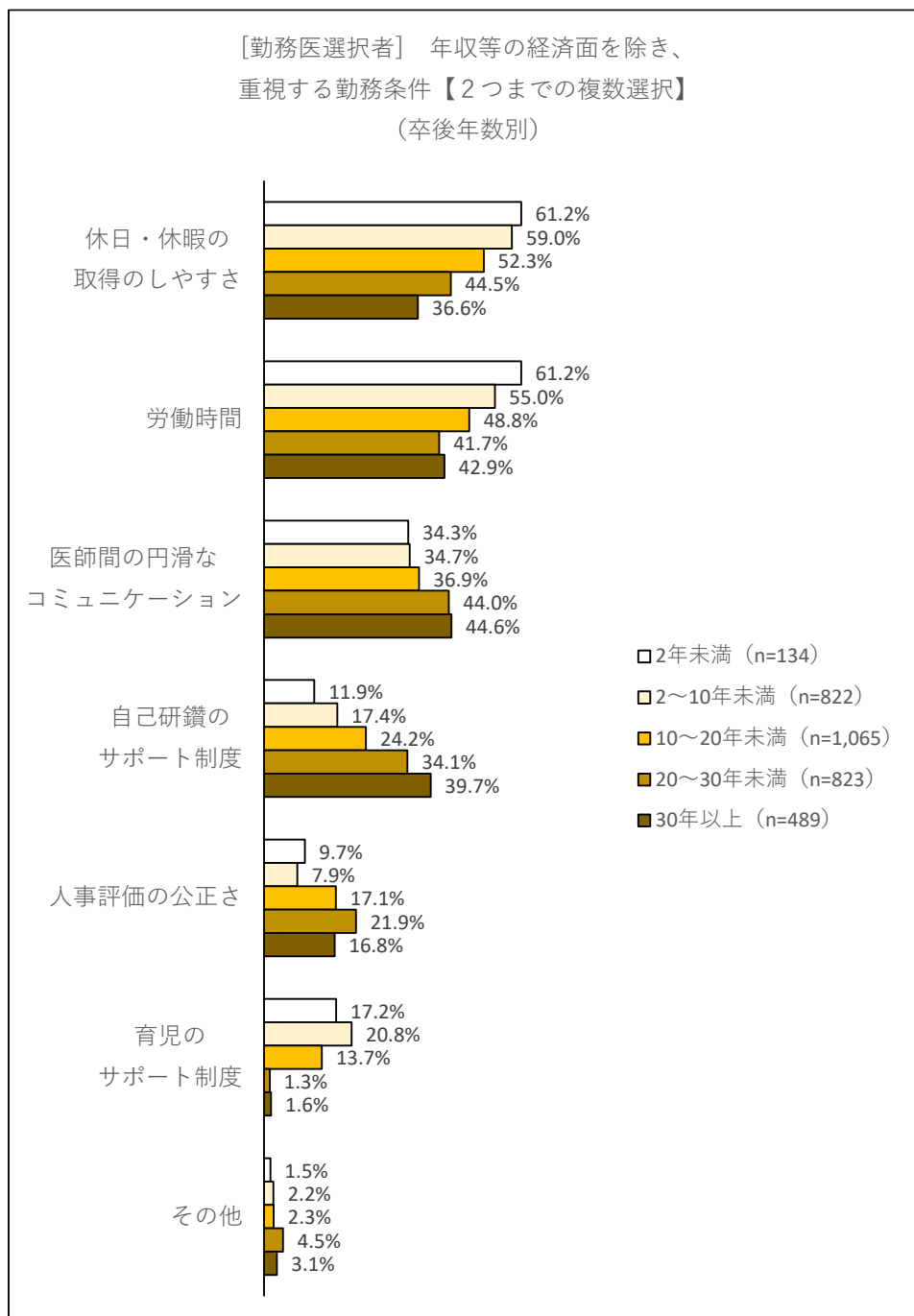
図表 3-2-3-4 は、勤務医選択者が重視する勤務条件について、子どもの状況別にクロス集計した結果を示している。「育児のサポート制度」について、未就学の子どもがいる群が挙げた割合が比較的高かった。

図表 3-2-3-4. [勤務医選択者] 重視する勤務条件 (子どもの状況別クロス集計)



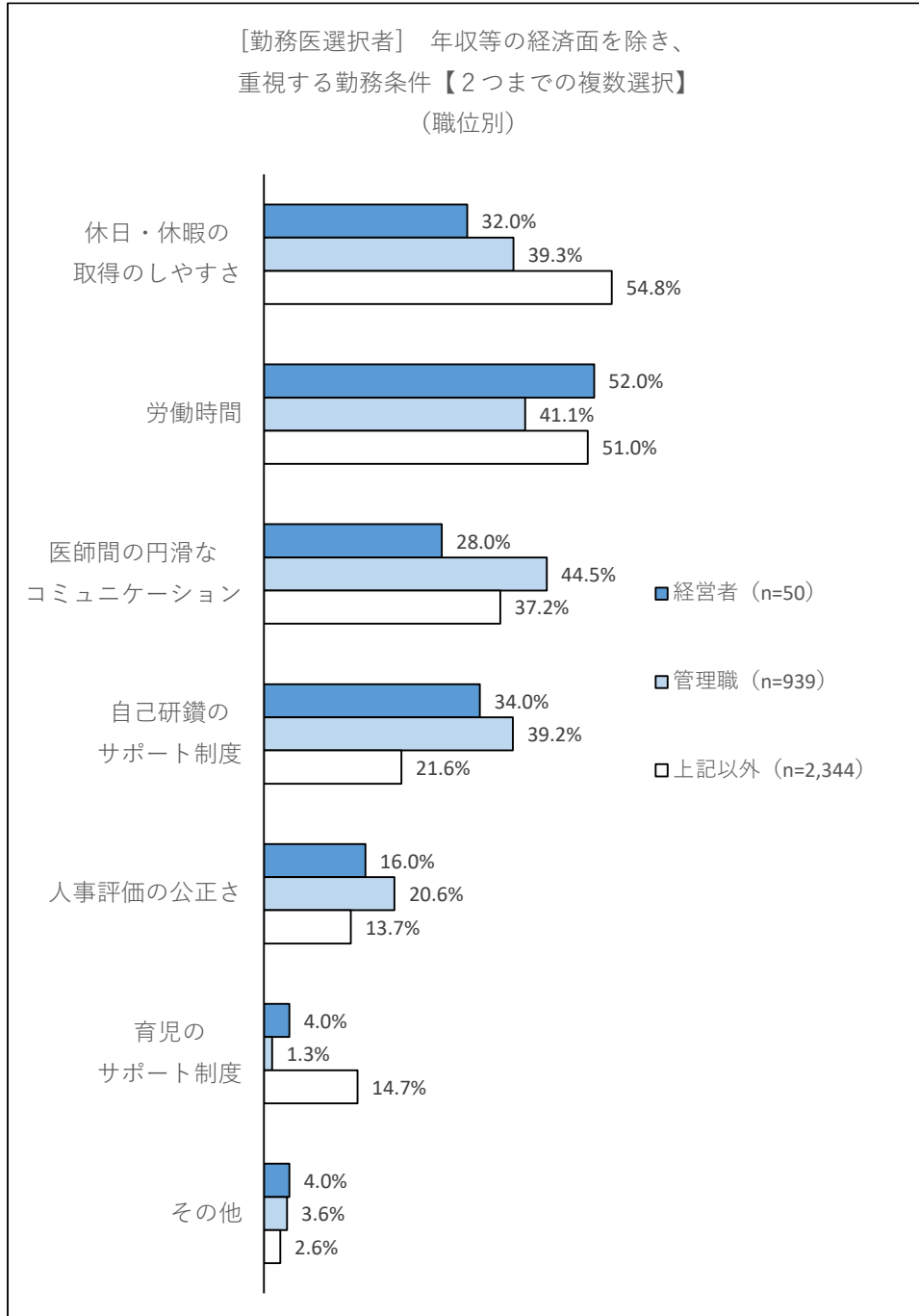
図表 3-2-3-5 は、勤務医選択者が重視する勤務条件について、卒後年数別にクロス集計した結果を示している。図で示した通り、卒後年数ごとに重視する勤務条件として挙げた割合に差異が見受けられた。

図表 3-2-3-5. 重視する勤務条件（卒後年数別クロス集計）



図表 3-2-3-6 は、勤務医選択者が重視する勤務条件について、職位別にクロス集計した結果を示している。職位ごとに重視する項目として挙げた割合が大きく異なる。

図表 3-2-3-6. [勤務医選択者] 重視する勤務条件（職位別クロス集計）

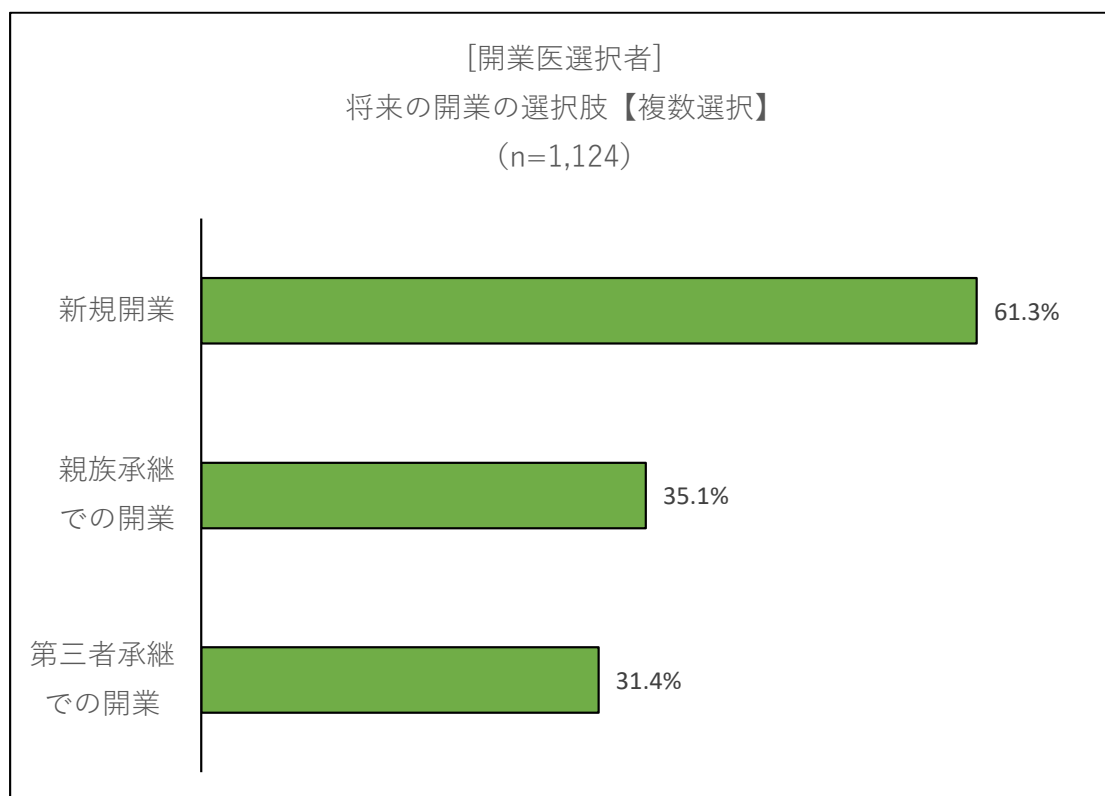


### 3. 3 開業医選択者について

#### (1) [開業医選択者] 開業手段の選択肢

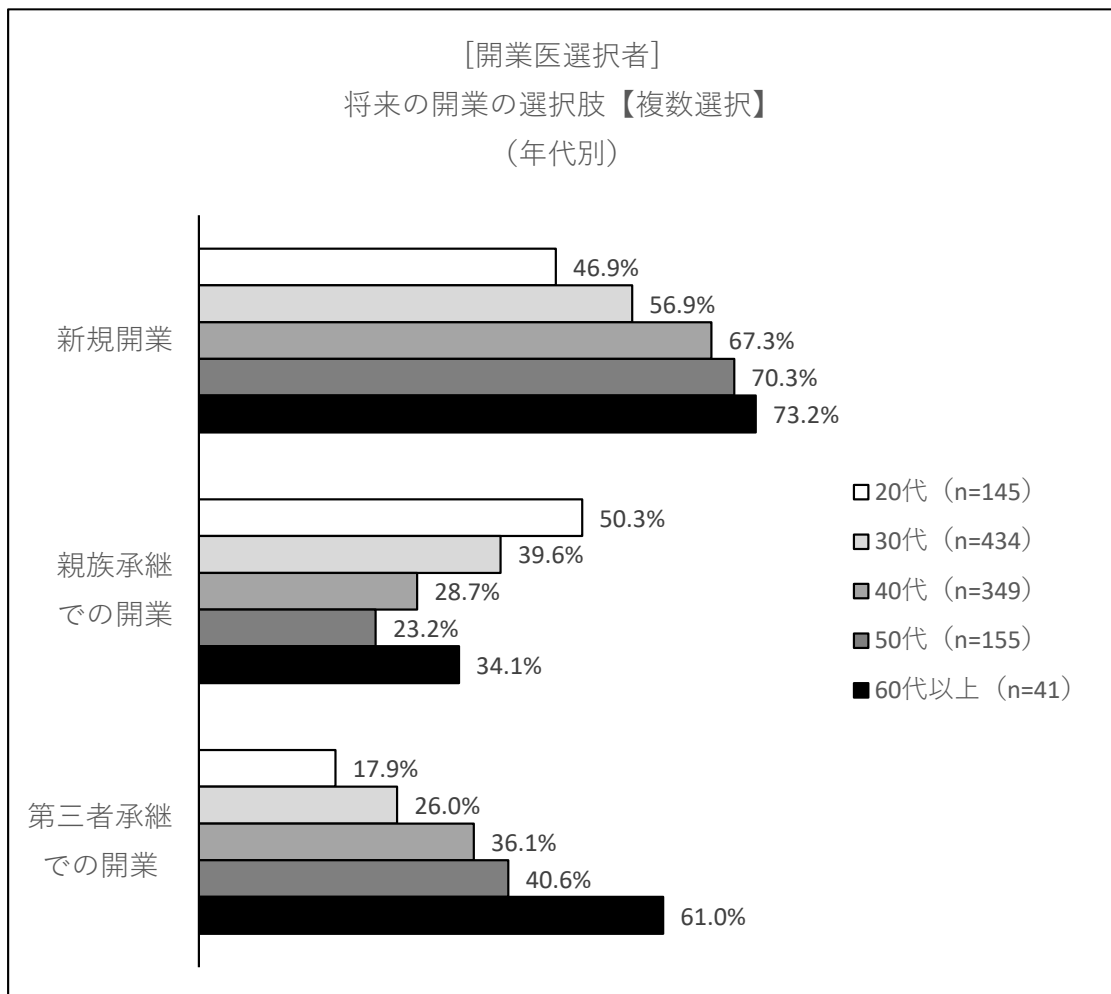
図表 3-3-1-1 は、キャリアの選択肢として開業医を選択した回答者（開業医選択者）の開業手段の選択肢について、複数選択での回答結果を示している。「新規開業」が最も多く（61.3%）、次いで「親族承継」（35.1%）、「第三者承継」（31.4%）という結果であった。

図表 3-3-1-1. [開業医選択者] 開業手段の選択肢



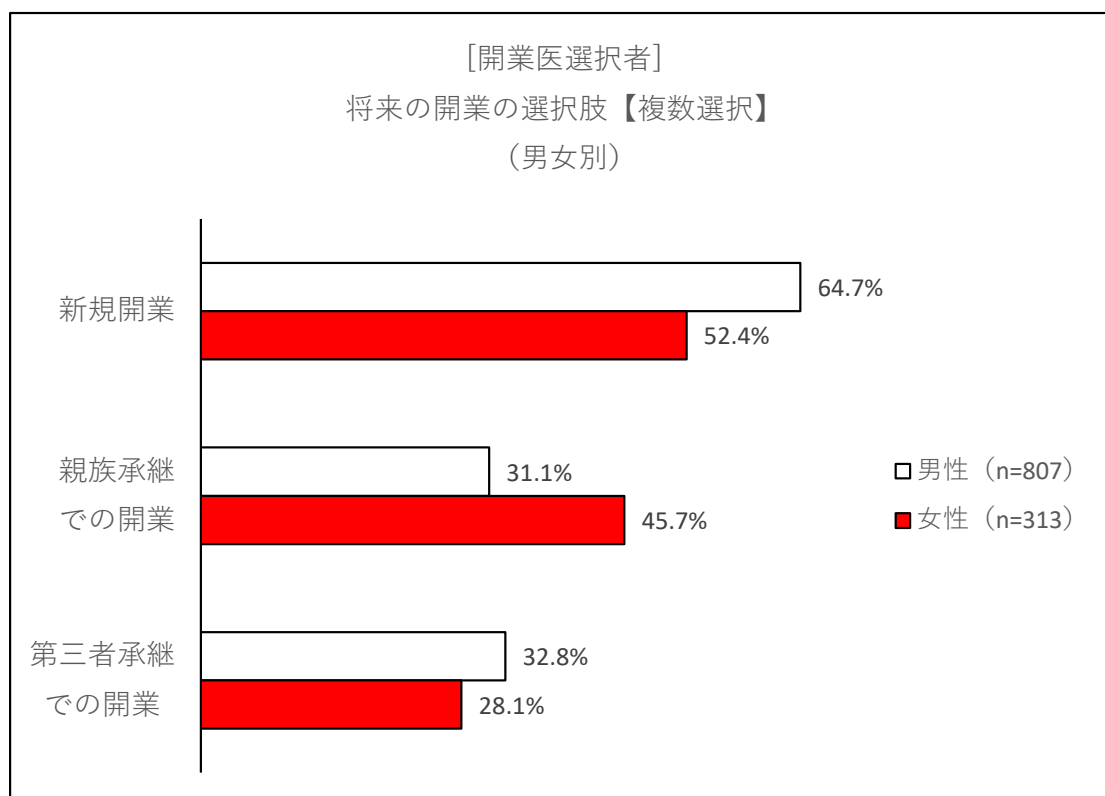
図表 3-3-1-2 は、開業医選択者の開業手段の選択肢について、年代別のクロス集計結果を示している。「新規開業」と「第三者承継」を選択肢としている割合は上の年代ほど高く、「親族承継」を選択肢としている割合は 50 代までは上の年代ほど低かった。

図表 3-3-1-2. [開業医選択者] 開業手段の選択肢 (年代別クロス集計)



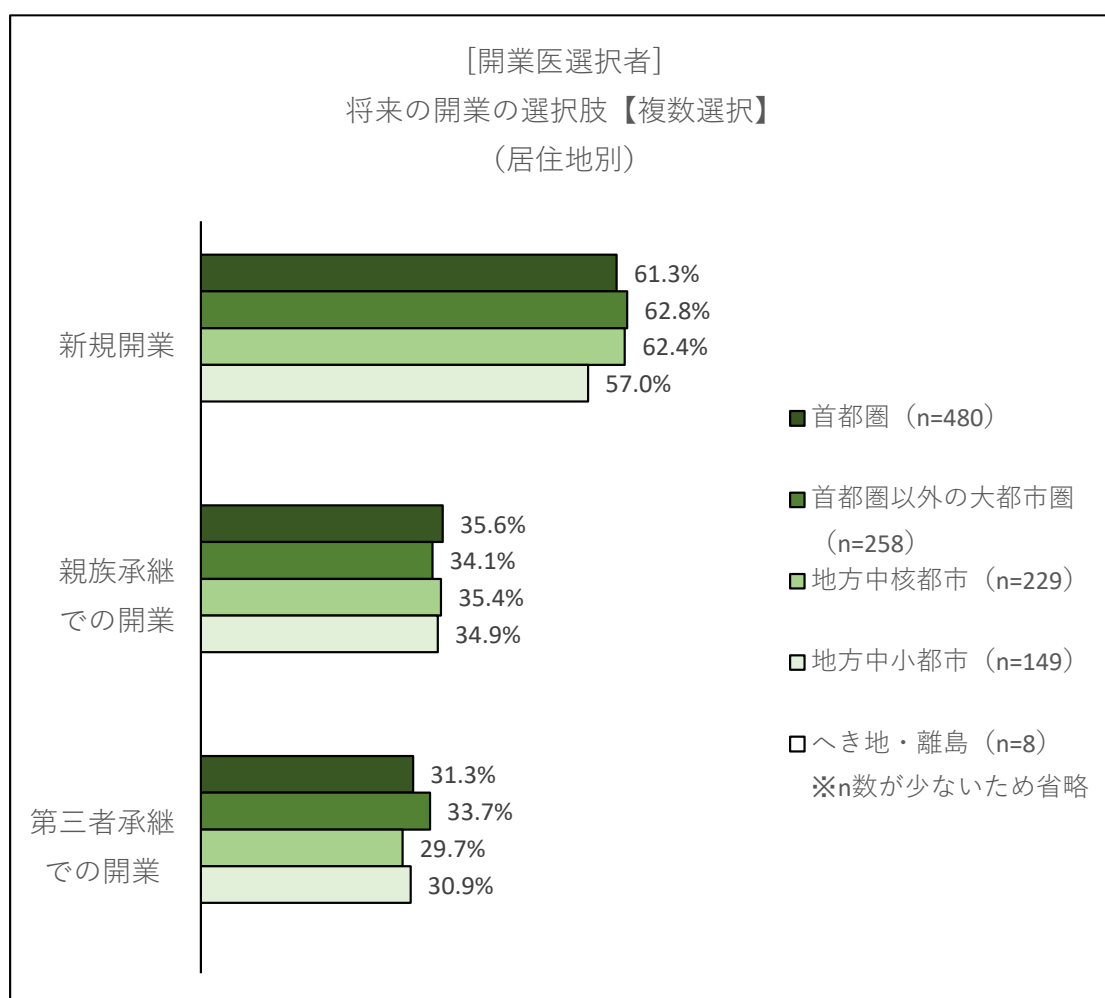
図表 3-3-1-3 は、開業医選択者の開業手段の選択肢について、男女別のクロス集計結果を示している。「新規開業」と「第三者承継」を選択肢としている割合は男性の方が高く、「親族承継」を選択肢としている割合は女性の方が高かった。

図表 3-3-1-3. [開業医選択者] 開業手段の選択肢 (男女別クロス集計)



図表 3-3-1-4 は、開業医選択者の開業手段の選択肢について、居住地別のクロス集計結果を示している。地方中小都市に居住する群が「新規開業」を選択している割合（57.0%）が他の群に比べてやや低いが、居住地ごとの差異はほぼ見受けられなかった（へき地・離島居住者は n 数が少ないため省略）。

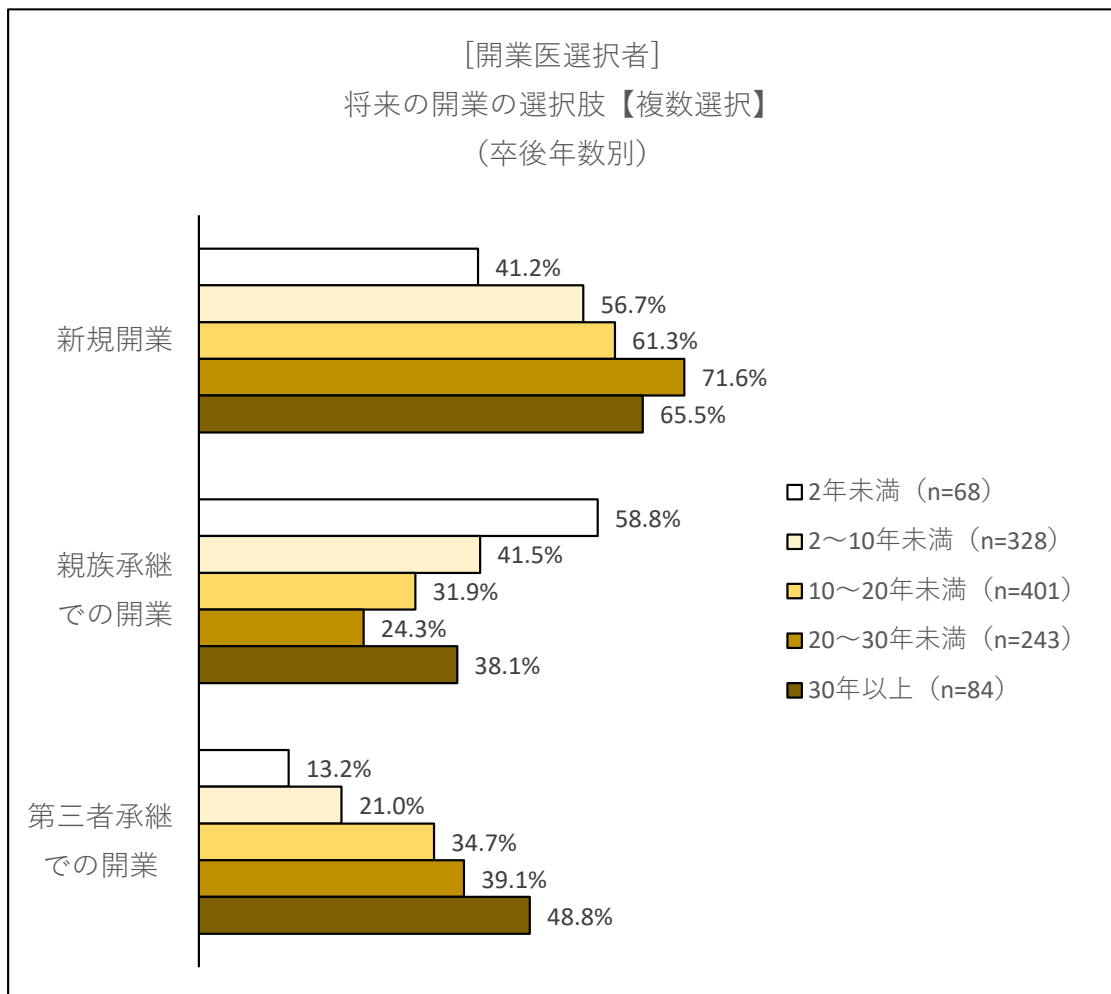
図表 3-3-1-4. [開業医選択者] 開業手段の選択肢（居住地別クロス集計）





図表 3-3-1-5 は、開業医選択者の開業手段の選択肢について、年代別のクロス集計結果を示している。図示した通り、卒後年数のカテゴリごとに、開業手段の選択肢としている割合の差異が見られる。「第三者承継」を選択肢としている割合は、卒後年数を経るほど高くなっていた。

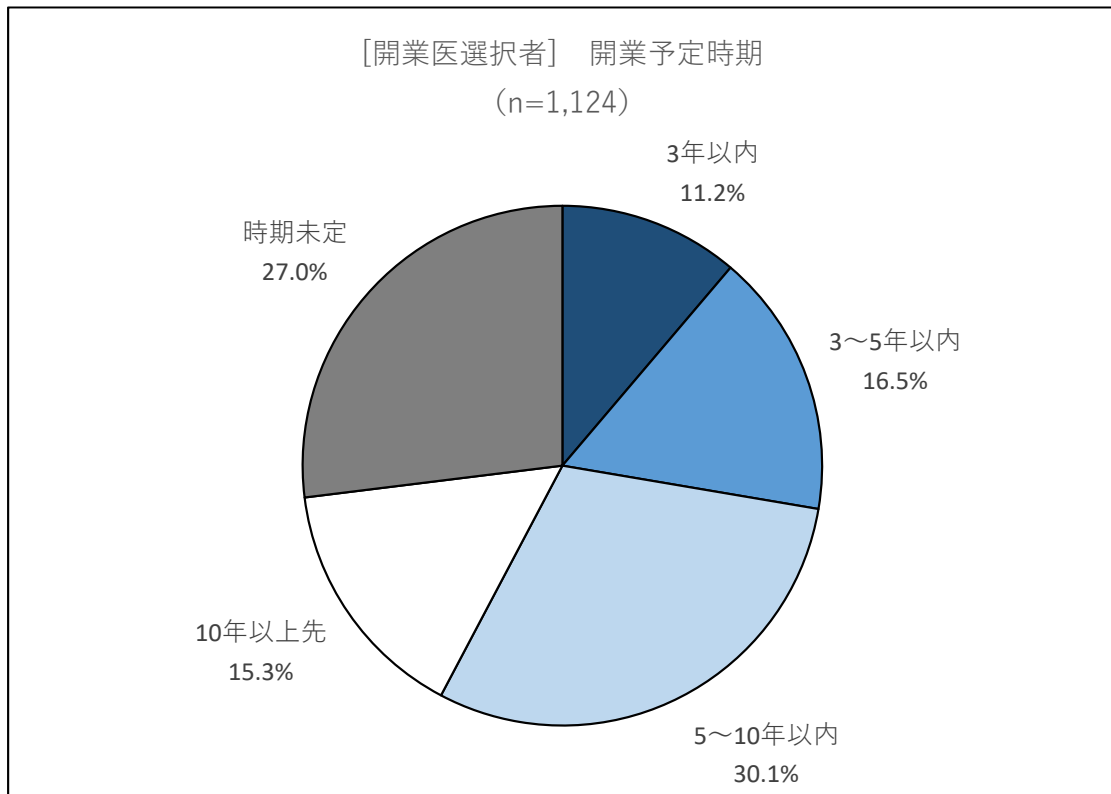
図表 3-3-1-5. [開業医選択者] 開業手段の選択肢 (卒後年数別クロス集計)



## (2) [開業医選択者] 開業予定時期

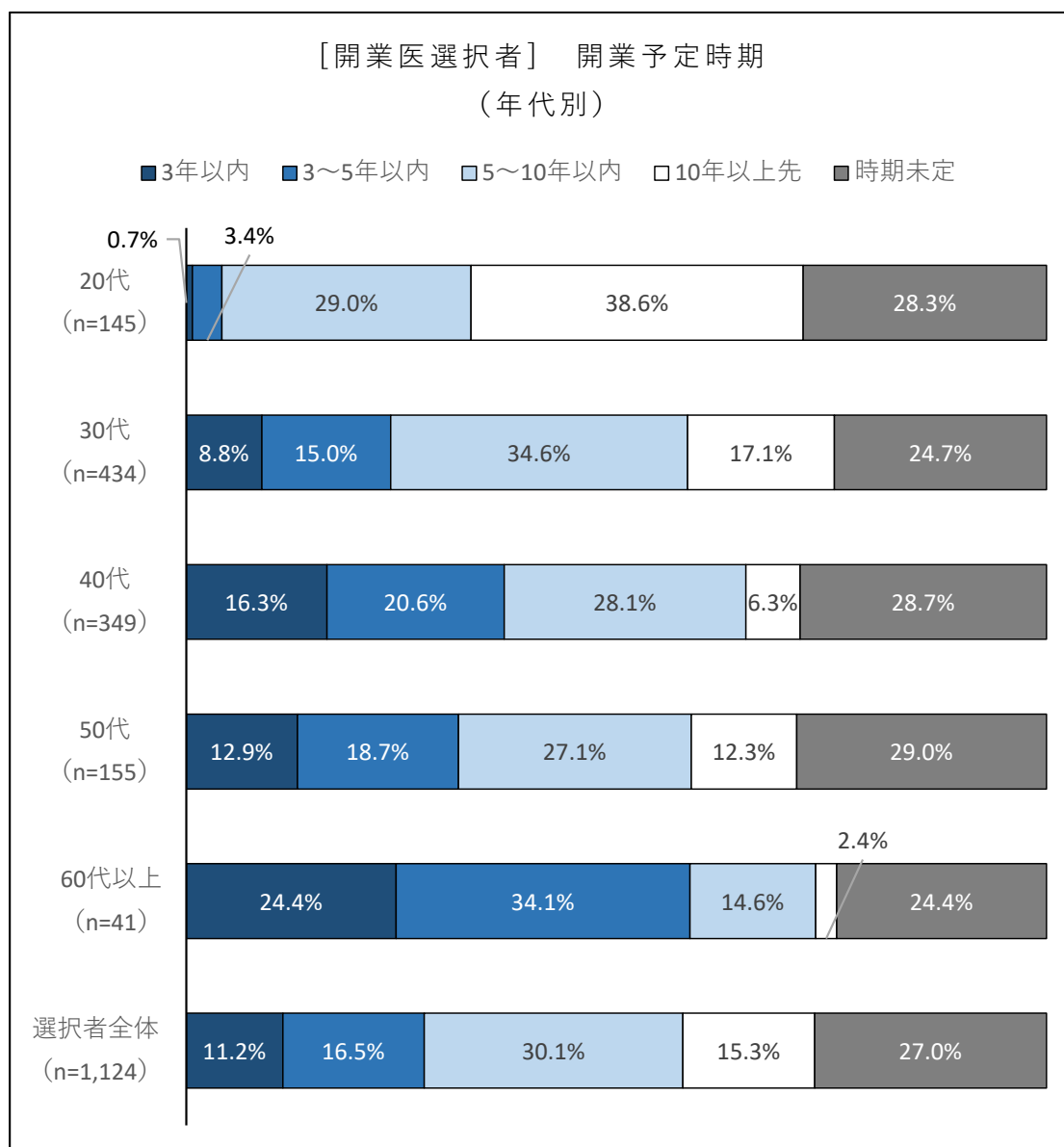
図表 3-3-2-1 は、開業医選択者の開業予定時期についての回答結果を示している。「3年以内」が 11.2%、「3～5年以内」が 16.5%、「5～10年以内」が 30.1%であり、10年以内の開業予定が約 5割であった。また、「10年以上先」は 15.3%であり、「時期未定」は 27.0%であった。

図表 3-3-2-1. [開業医選択者] 開業予定時期



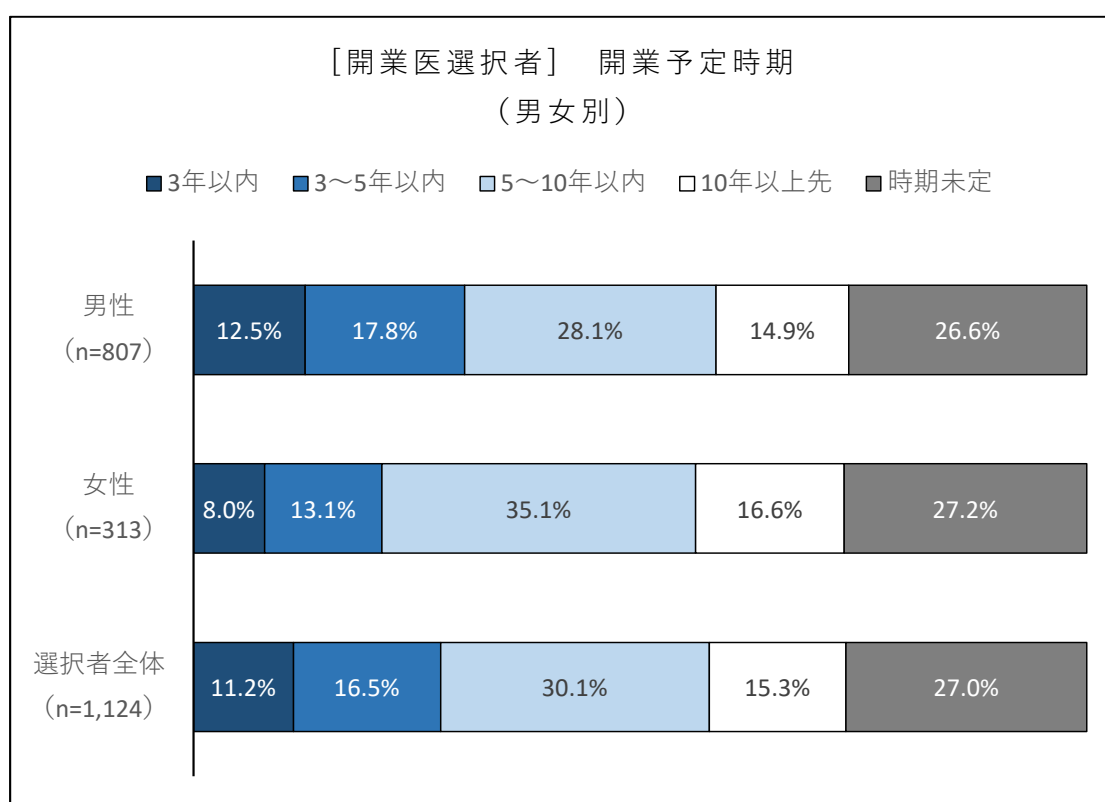
図表 3-3-2-2 は、開業医選択者の開業予定時期について、年代別にクロス集計した結果を示している。上の年代ほど、より近い時期の開業を予定している傾向があった。一方で、各年代ともに約 25～30%の割合で、開業時期未定との回答であった。

図表 3-3-2-2. [開業医選択者] 開業予定時期 (年代別クロス集計)



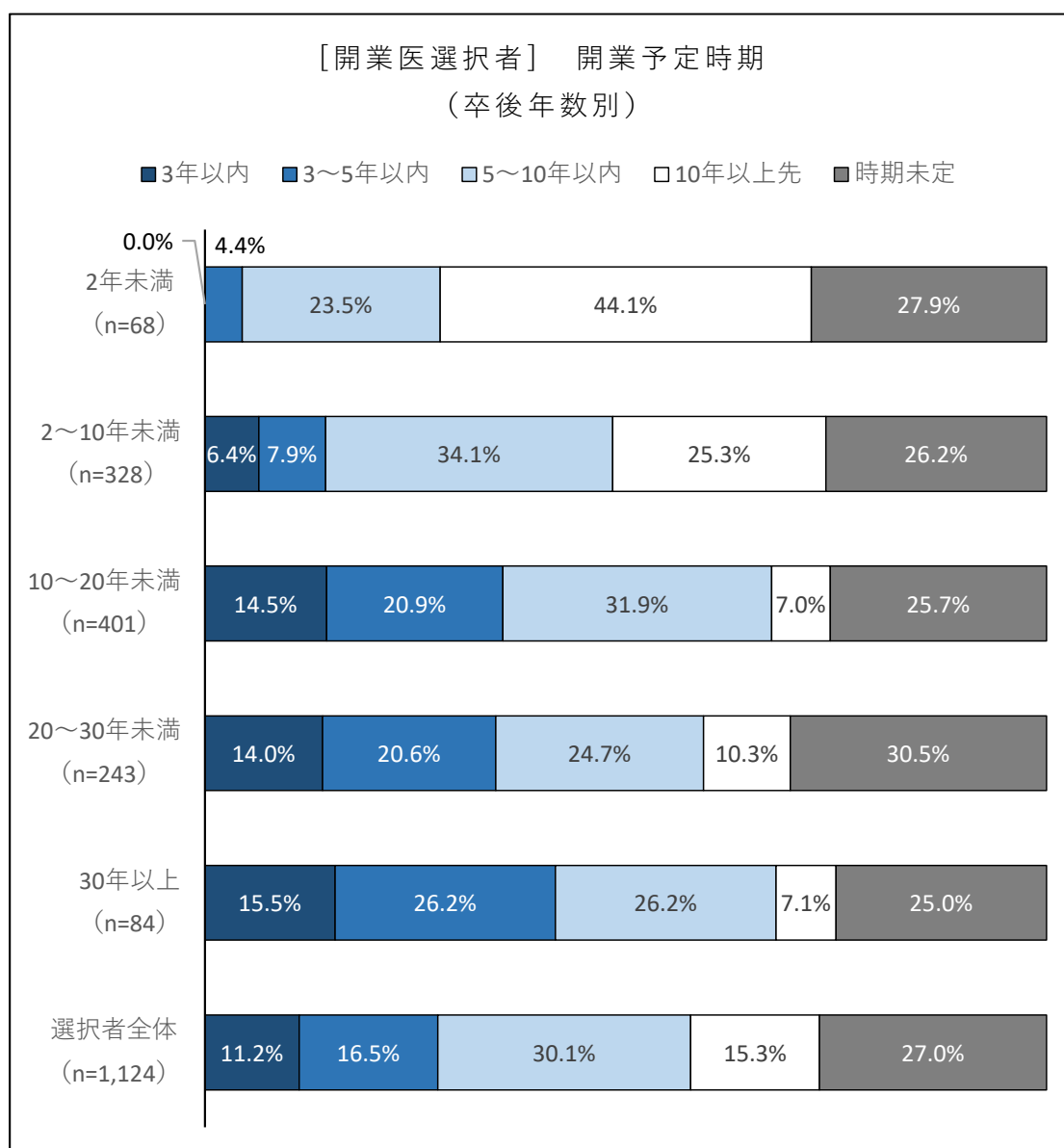
図表 3-3-2-3 は、開業医選択者の開業予定時期について、男女別にクロス集計した結果を示している。5年以内の開業を予定している割合は男性の方が高かったが（男性 30.3%、女性 21.1%）、10年以内の開業を予定している割合は男女であまり差がなかった（男性 58.4%、女性 56.2%）。

図表 3-3-2-3. [開業医選択者] 開業予定時期（男女別クロス集計）



図表 3-3-2-4 は、開業医選択者の開業予定時期について、卒後年数別にクロス集計した結果を示している。卒後年数を経るほど、より近い時期の開業を予定している傾向があった。一方で、全てのカテゴリにおいて、約 25～30%の割合で開業時期未定との回答だった。

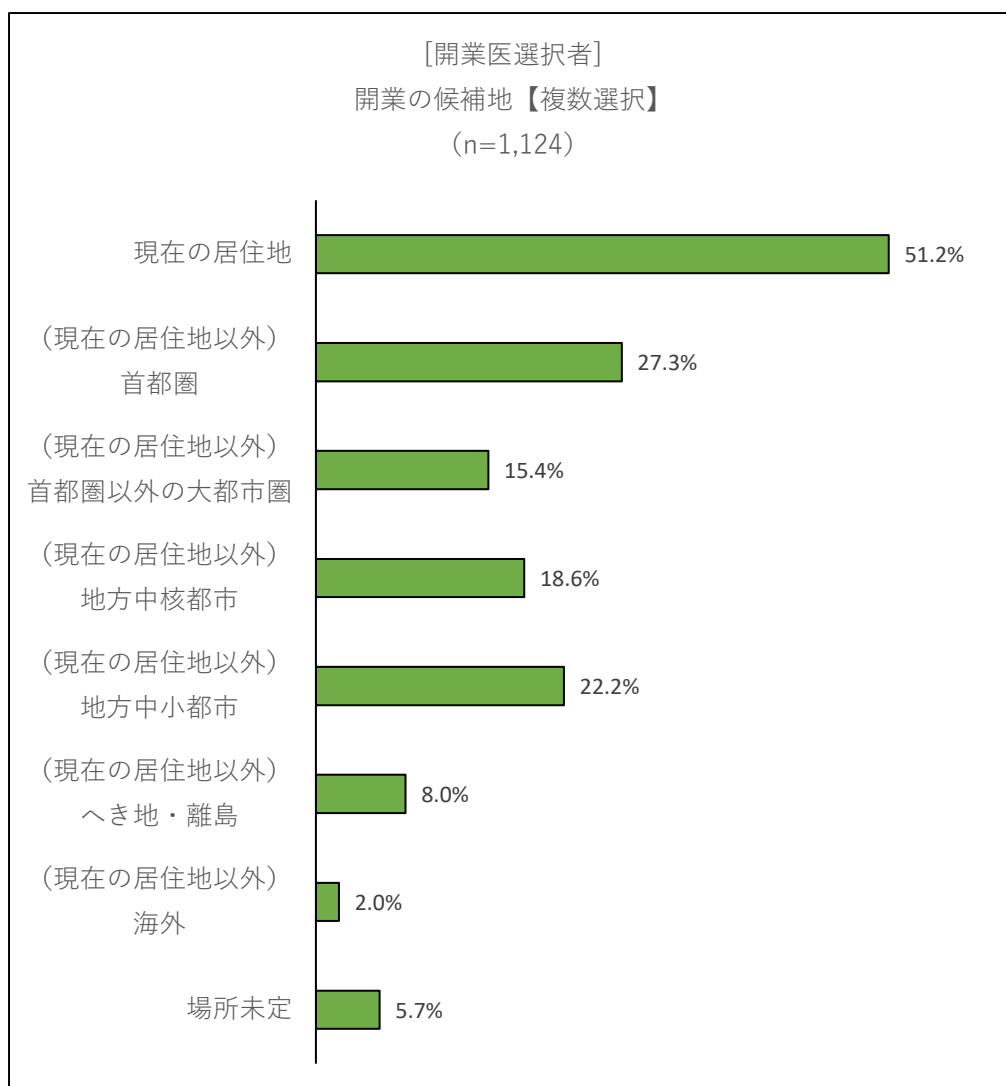
図表 3-3-2-4. [開業医選択者] 開業予定時期 (卒後年数別クロス集計)



### (3) [開業医選択者] 開業の候補地

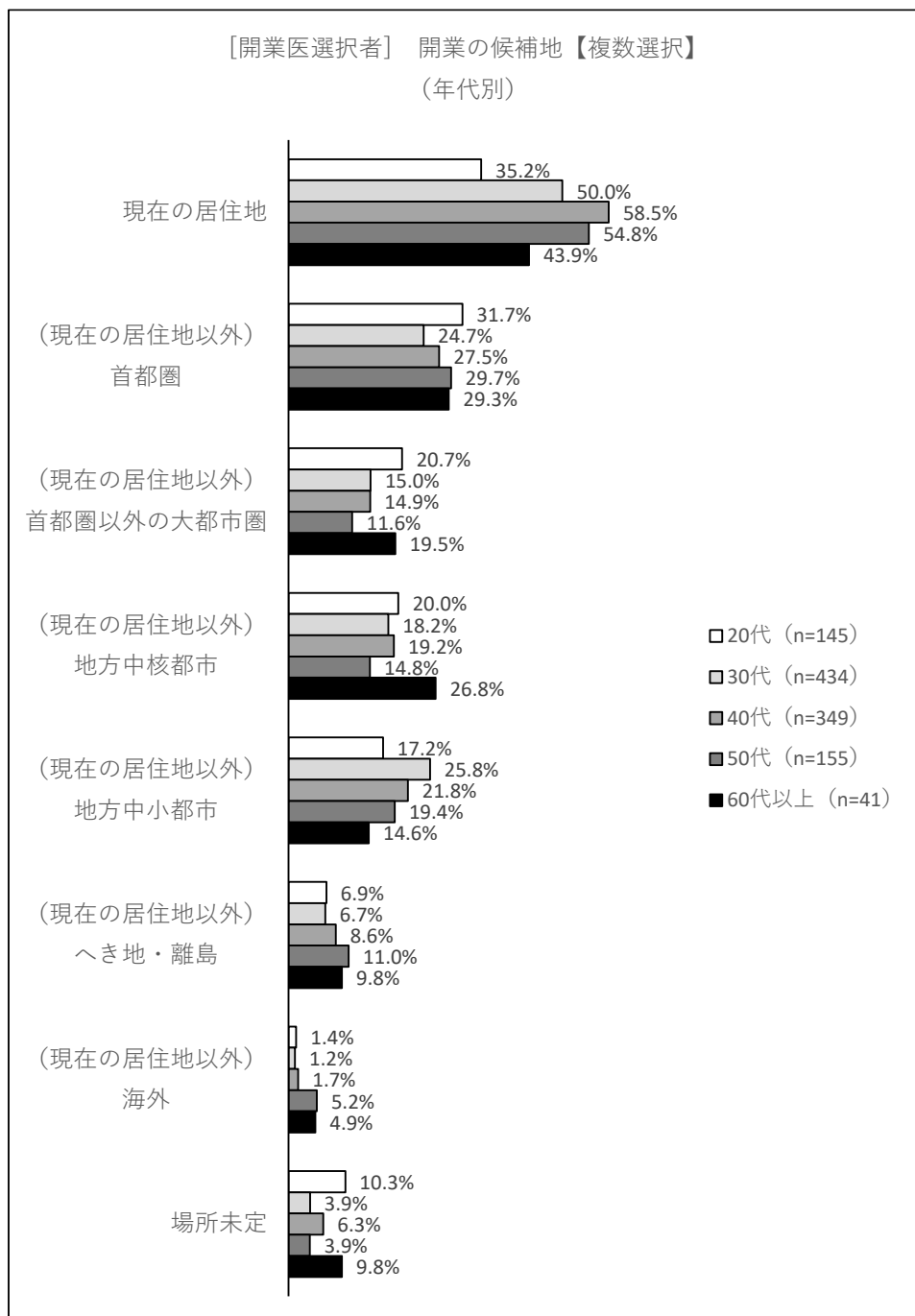
図表 3-3-3-1 は、開業医選択者の開業の候補地について、複数選択での回答結果を示している。「現在の居住地」を候補とした割合が 5 割超（51.2%）で最も多かった。現在の居住地以外では、「首都圏」（27.3%）、「地方中小都市」（22.2%）、「地方中核都市」（18.6%）、「首都圏以外の大都市圏」（15.4%）、「へき地・離島」（8.0%）、「海外」（2.0%）の順であった。「場所未定」が 5.7%であった。

図表 3-3-3-1. [開業医選択者] 開業の候補地



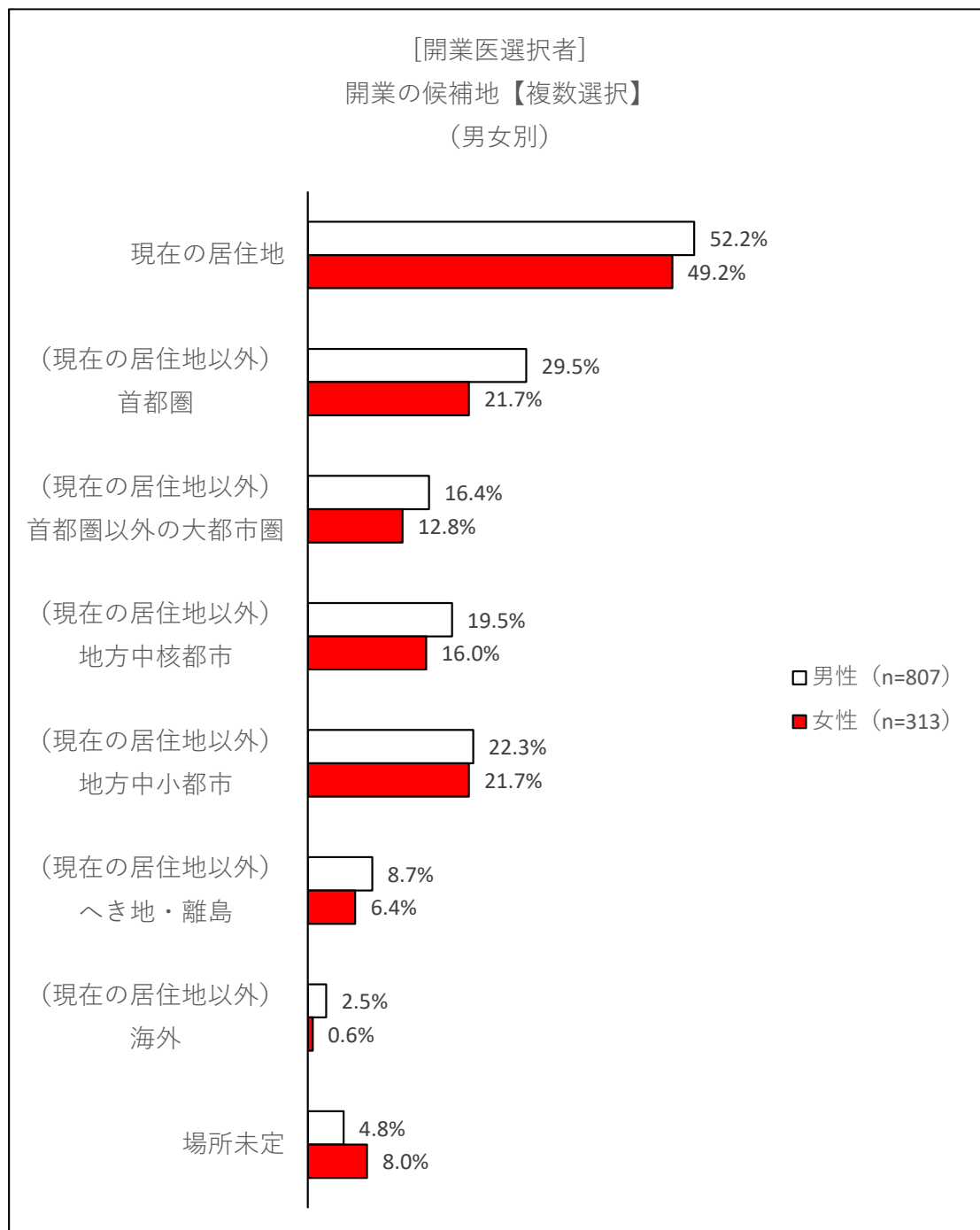
図表 3-3-3-2 は、開業医選択者の開業の候補地について、年代別のクロス集計結果を示している。図示した通り、年代ごとに候補地をしてあげている割合に差異が見られた。

図表 3-3-3-2. [開業医選択者] 開業の候補地 (年代別クロス集計)



図表 3-3-3-3 は、開業医選択者の開業の候補地について、男女別のクロス集計結果を示している。おおよその傾向は似通っているが、現在の居住地以外で首都圏を候補地としている割合は、男性に比べて女性の方が低かった。

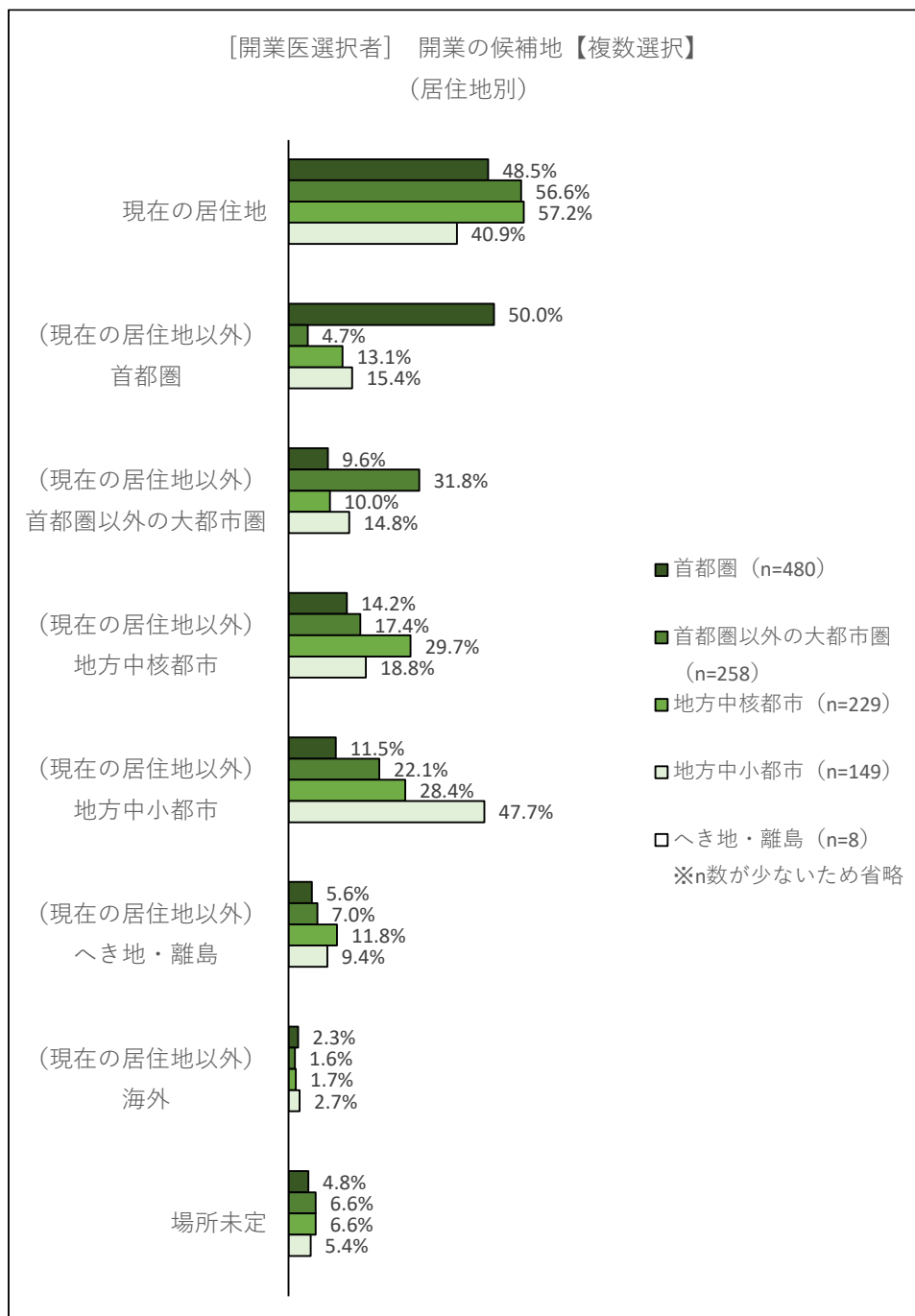
図表 3-3-3-3. [開業医選択者] 開業の候補地 (男女別クロス集計)





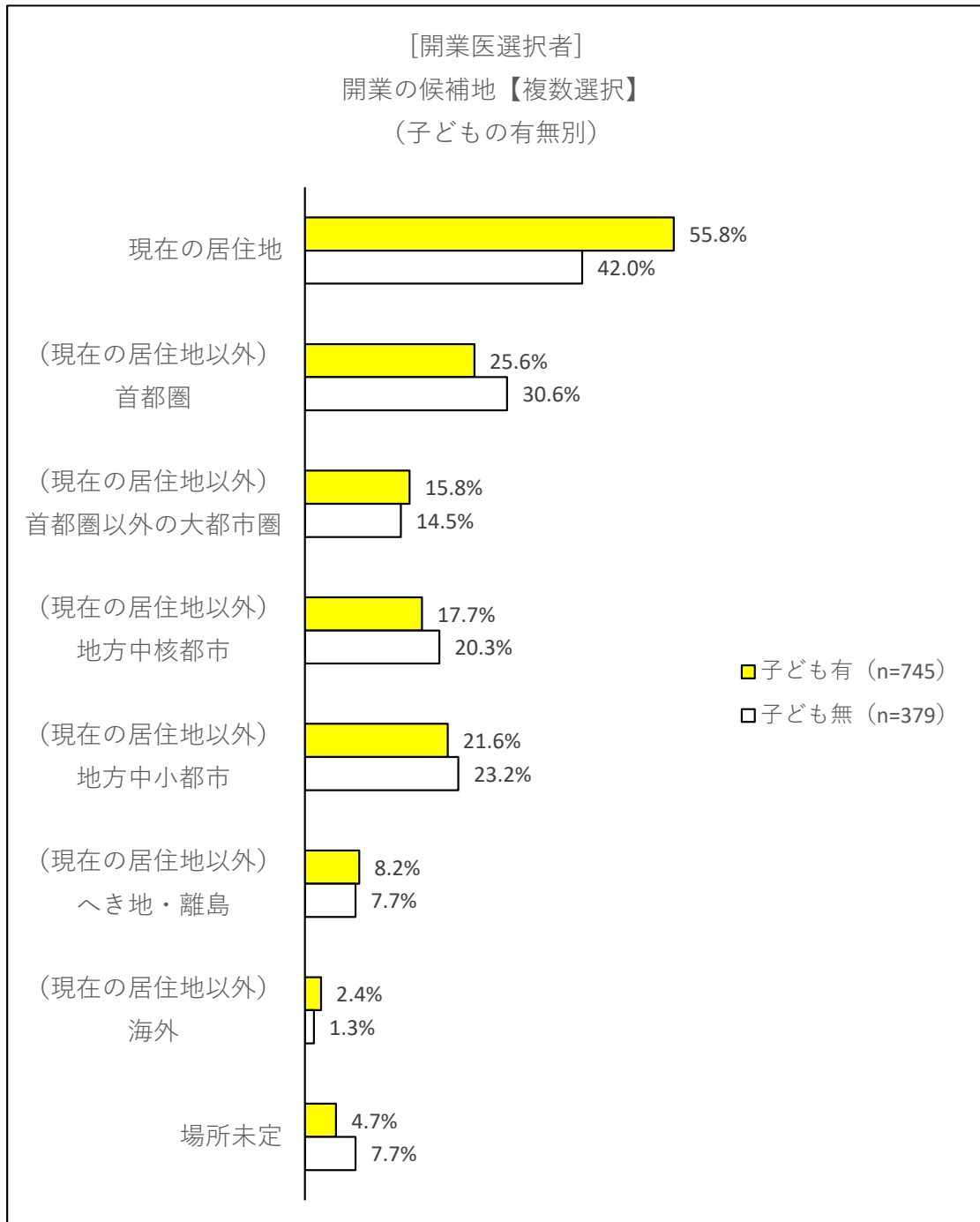
図表 3-3-3-4 は、開業医選択者の開業の候補地について、居住地別のクロス集計結果を示している。現在の居住地か、現在の居住地に類する場所を開業候補地としている割合が高かった。

図表 3-3-3-4. [開業医選択者] 開業の候補地 (居住地別クロス集計)



図表 3-3-3-4 は、開業医選択者の開業の候補地について、子どもの有無別のクロス集計結果を示している。子ども有の方が、現在の居住地を開業の候補地としている割合が高かった。

図表 3-3-3-5. [開業医選択者] 開業の候補地 (子どもの有無別クロス集計)



## 4. 結果のまとめ

医育機関に所属する勤務医の将来のキャリアに関する動向の把握を目的とし、2023年に日本医師会が実施した調査データを分析した。分析結果の概略を以下にまとめておく。

### 4. 1 将来のキャリアの選択肢について

医育機関に所属する勤務医が将来のキャリアの選択肢とした上位3つは「勤務医」(91.1%)、「開業医」(30.7%)、「研究者・教員」(25.7%)であった。

クロス集計分析の結果からは、以下の所見が得られた。

- **【年代別】** 上の年代ほど「開業医」を選択肢としている割合が低く、「研究者・教員」を選択肢としている割合が高い。
- **【男女別】** 女性の方が「開業医」を選択肢としている割合が低い。
- **【居住地別】** 首都圏居住者が「開業医」を選択肢としている割合が高い。
- **【配偶者・パートナーの状況別】** 医師の配偶者・パートナーがいる群が「開業医」を選択肢としている割合が高い。
- **【卒後年数別】** 卒後年数を重ねるほど「開業医」を選択肢としている割合が低く、研究者・教員を選択肢としている割合が高い。
- **【職位別】** 経営者は「勤務医」を選択肢としている割合が比較的 low、管理職は「開業医」を選択肢としている割合が比較的 low。

#### 4. 2 「勤務医」を選んだ回答者について

「勤務医」を選んだ回答者が想定している職場は、多い順に「大学病院」(73.4%)、「大学医局の関連病院」(63.9%)、「上記以外の医療機関」(55.3%)であった。

クロス集計分析の結果からは、以下の所見が得られた。

- **【年代別】**上の年代ほど「大学医局の関連病院」を想定している割合が低い。
- **【男女別】**「大学病院」を想定している割合は男性の方が高く、「大学医局の関連病院」と「上記以外の医療機関」を想定している割合は女性の方が高い。
- **【居住地別】**首都圏居住者は「大学医局の関連病院」を想定している割合が低い。
- **【卒後年数別】**卒後年数を経るほど「大学医局の関連病院」を想定している割合が低い。

「勤務医」を選んだ回答者が想定している勤務形態の 8 割以上が「常勤」(82.1%)であり、次いで「非常勤 週 20 時間以上」(8.8%)であった。「非常勤 週 20 時間未満」(3.0%)や「スポット勤務」(1.4%)は、少数派であった。

クロス集計分析の結果からは、以下の所見が得られた。

- **【年代別】**60 代以上と 20 代・30 代では、40 代・50 代に比べると「非常勤」を想定している割合が高い。
- **【男女別】**女性の方が「非常勤」を想定している割合が高い。
- **【配偶者・パートナーの状況別】**医師の配偶者・パートナーがいる群が「非常勤」を想定している割合が高い。

- **【子どもの状況別】** 子どもの有無や未就学児の有無によって、目立った差異は認められない。
- **【卒後年数別】** 卒後 2～10 年未満の群と卒後 30 年以上の群は「非常勤」を想定している割合が比較的高い。
- **【職位別】** 経営者の群が「非常勤」を想定している割合が高い。

「勤務医」を選んだ回答者が重視する勤務条件（年収等の経済面を除き、2 つまでの複数選択）は「休日・休暇の取得のしやすさ」(50.1%)、「労働時間」(48.2%)が多く、共に 5 割前後が挙げた。続いて「医師間の円滑なコミュニケーション」(39.1%)、「自己研鑽のサポート制度」(26.8%)、「人事評価の公正さ」(15.7%)、「育児のサポート制度」(10.8%) の順に多かった。

クロス集計分析の結果からは、以下の所見が得られた。

- **【年代別】** 「休日・休暇の取得のしやすさ」と「労働時間」は上の年代ほど重視する割合が低く、「医師間の円滑なコミュニケーション」と「自己研鑽のサポート制度」は上の年代ほど重視する割合が高い。
- **【男女別】** 「休日・休暇の取得のしやすさ」「労働時間」「医師間の円滑なコミュニケーション」の上位 3 項目は男女共通だが、「自己研鑽のサポート制度」と「人事評価の公正さ」は男性の方が重視する割合が高く、「育児のサポート制度」は女性の方が重視する割合が高い。
- **【子どもの状況別】** 「育児のサポート制度」は未就学の子どものいる群が重視する割合が高い。
- **【年代別】** 「休日・休暇の取得のしやすさ」と「労働時間」は卒後年数を経るほど重視する割合が低く、「医師間の円滑なコミュニケーション」と「自己研鑽のサポート制度」は卒後年数を経るほど重視する割合が高い。

- **【職位別】** 経営者が重視する上位 2 項目は「労働時間」(52.0%) と「自己研鑽のサポート制度」(34.0%)、管理職では「医師間の円滑なコミュニケーション」(44.5%) と「労働時間」(41.1%)、上記以外では「休日・休暇の取得のしやすさ」(54.8%) と「労働時間」(51.0%) である。

#### 4. 3 「開業医」を選んだ回答者について

開業手段の選択肢は「新規開業」(61.3%) が最も多く、「親族承継」(35.1%)、「第三者承継」(31.4%) という結果であった。

クロス集計分析の結果からは、以下の所見が得られた。

- **【年代別】** 「新規開業」と「第三者承継」を想定している割合は上の年代ほど高く、「親族承継」を想定している割合は 50 代までは上の年代ほど低い。
- **【男女別】** 「新規開業」と「第三者承継」を選択肢としている割合は男性の方が高く、「親族承継」を選択肢としている割合は女性の方が高い。
- **【居住地別】** 地方中小都市に居住する群が「新規開業」を選択としている割合が他に比べてやや低いが、居住地ごとの差異はほぼ見受けられない。
- **【卒後年数別】** 卒後年数を経るほど「第三者承継」を想定している割合が高い。卒後 30 年までは、卒後年数を経るほど「新規開業」を想定している割合が高く、「親族承継」を想定している割合が低い。

開業予定時期は「3 年以内」11.2%、「3～5 年以内」16.5%、「5～10 年以内」30.1%で、10 年以内の開業予定が約 5 割であった。「10 年以上先」は 15.3%であり、「時期未定」は 27.0%であった。

クロス集計分析の結果からは、以下の所見が得られた。

- **【年代別】** 上の世代ほど、より近い時期の開業予定の割合が高い。一方、各年代とも 25～30%の割合で時期未定。
- **【男女別】** 5 年以内の開業予定の割合は男性の方が高いが、10 年以内の開業予定割合は男女であまり差がない。
- **【卒後年数別】** 卒後年数を経るほどより近い時期の開業予定の割合が高い。

開業候補地は「現在の居住地」(51.2%) を挙げた割合が最も多かった。現在の居住地以外では、「首都圏」(27.3%)、「地方中小都市」(22.2%)、「地方中核都市」(18.6%)、「首都圏以外の大都市圏」(15.4%)、「へき地・離島」(8.0%)、「海外」(2.0%) の順であった。「場所未定」が 5.7%であった。

クロス集計分析の結果からは、以下の所見が得られた。

- **【年代別】** 「現在の居住地」を挙げた割合は 40 代・50 代が比較的高い。上の年代ほど「へき地・離島」や「海外」を挙げた割合が高い。
- **【男女別】** 「首都圏」を挙げた割合は、男性に比べて女性の方が低い。
- **【居住地別】** 「現在の居住地」か「現在の居住地」に類する場所を開業候補地としている割合が高い。
- **【子どもの有無別】** 子ども有の方が、現在の居住地を開業の候補地としている割合が高い。

別添資料：図表集